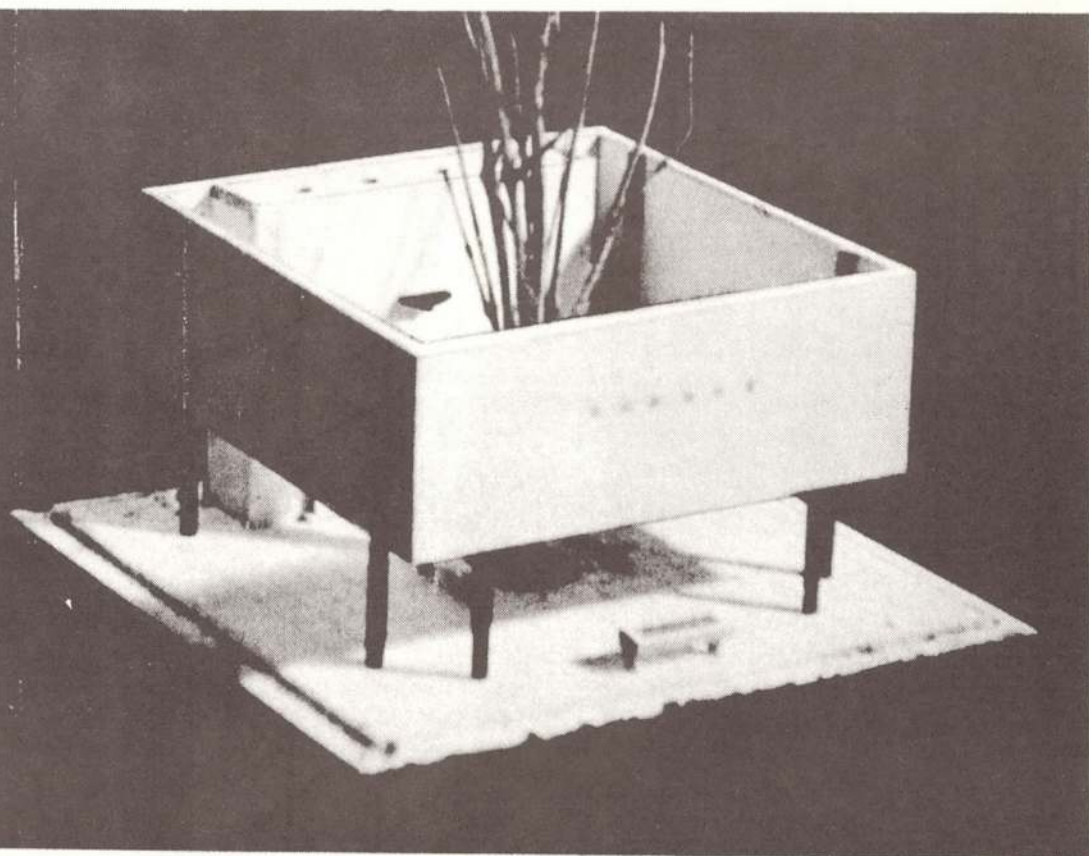


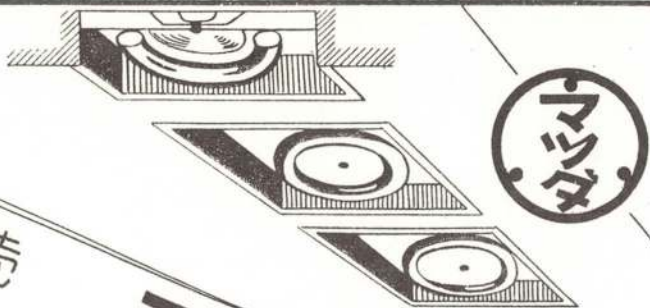
建築と社會



上野市慰靈塔
日 建
小 倉 傳 治

日 本 建 築 協 会

待望の新製品発売



マツダ蛍光サークライン

32W昼光色・32W白色・32W天然昼光色・32W天然白色



明るさ 100ワット白熱電球
と同程度

Toshiba

東芝商事株式会社大阪支店 (大阪市北区堂島浜通1~15)

TRADE MARK



DOG

メンブレン式 防水

の補強材料は30年の経厂を誇る

ドック 印で!!

- | | |
|------|---------------------|
| ドック印 | アスファルトルーフィング |
| // | アスファルトフェルト |
| // | キンマレアタイト (高級滌青金麻布) |
| // | ヘツシヤンファブリック (滌青黄麻布) |
| // | コットンファブリック (滌青綿布) |
| // | 白麻ファブリック (滌青苧麻布) |
| // | ゲオンタイト (伸縮目地板) |

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい
震動箇所でも弊社製品は完璧
の防水効果を発揮して居ります

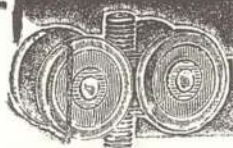
型録・見本・仕様書
御報呈上



日本工業規格表示許可工場

株式会社 工英社

大阪市西成区橋通9丁目24番地 電話天下茶屋④4628番



TRADE

M.K.K.

MARK

ドアハンガー

御用命は東西代理店へ御願ひします

トラックレール 6尺 9尺 12尺

及
ガイドレール 曲リレール

種

スチール ボール入 単車・複車

スチール ローラー入

目

2連 3連用 天井受 側面受

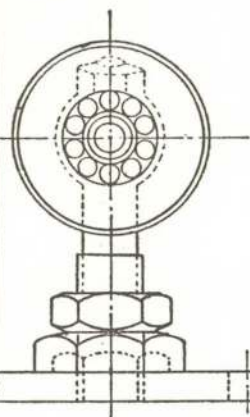
エブロン付プレート付ガイドローラー

其の他附属品一切

用途

ガレージ 格納庫

倉庫・間仕切等



株式会社 三谷製作所

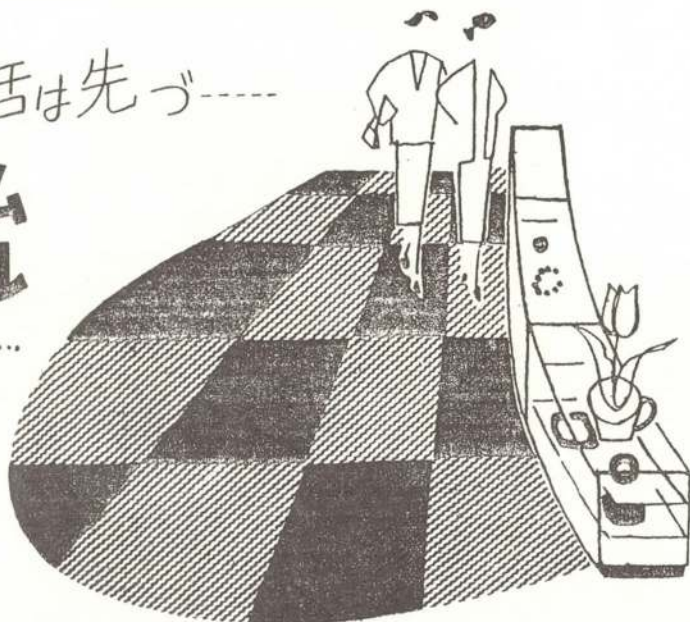
東京都足立区高野町 218 番地

TEL 足立 (88) 4048・4239

文化的な生活は先づ-----

リノリウム
リノタイル

の使用から.....



東洋リノリウム株式会社

本社工場 伊丹市伊丹五五八 電伊丹1・51

東京支店 中央区銀座西・三和ビル 電京橋1701

大阪事務所 東區瓦町二・三和ビル 電北濱375・376

慈光院見学会

錦秋の大和路に古寺をたずね一日を過したく、標記見学会を開催することになりました。尙当日は同院住職尾関恵京師から色々のお話を伺い、抹茶の饗応を受けることとなっております。下記要項御参照の上奮って御申込み下さい。

1.日 時 10月27日(水)

1.集合場所 関西本線大和小泉駅午前10時半(遅参の方は直接同院にお越し下さい)

・参考・(往路時間表)天王寺発 9.25・10.20—大和小泉着10.20・11.15、尙京都より御参加の方は木津経由が便利です。

1.会 費 250円(昼食・拝観料)前納願います

1.メ 切 10月25日、予定人員に達した時は、期日前でもメ切ます。

・慈光院について・(臨済宗大徳寺派)大和小泉駅より西北一軒約20分で当寺に至る。寛文3年(1663)片桐石見守真昌が父貞隆の菩提のために創立したもので、貞昌は茶道石州流の祖として名高く、境内の茶室および書院〔重文〕、庭園〔指定名勝・史跡〕はいずれもその作である。尙当寺において毎年4月20日、10月20日には石州忌が行われ、全国著名茶人が集って開かれる茶会は有名である。

北電話局見学会

標記新建築の見学会を(株)松村組の御幹旋で開催致します。奮って御申込み下さい。

1.日 時 10月23日(土)午後2時集合

1.集合場所 大阪市北区兎我野町111番標記電話局正門(大阪駅より旧市電扇町線・大融寺を南約2丁)

1.会 費 30.00円(前納下る様願います)

1.申込メ切 10月21日迄。

1.建物概記 設計、監理 日本電信電話公社建築部

施 工 株式会社 松 村 組

工 期 起工 昭和28年10月 竣工同29年11月

構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階

建 築 面 積 延8,920.15平米 附属屋 鉄筋コンクリート造1階延212.08平米

・特徴・ 大阪では本町局に次ぐものである(本町局4万回線・北局2万回線)

・経過報告・「秋の古建築見学会」短時日のうちに予定人員の倍以上の御申込みを頂き、当初の計画を変更10月10日・10月20日2回に亘り開催いたしました。尙10日には参加者有志により懇親晩餐会を催し、種々御意見御希望を得る機会があり、有意義な夕べになりました。

「桂・修学院離宮見学会」多数の御申込を頂き、現在宮内庁と日時その他について打合せ中で、10月中旬に連絡致します。

コンクリート技能(術)講習会(兵庫・京都支部)開催通知

大阪に於て8月20日～9月6日迄9日間開催の第1回コンクリート技能講座は多大の成果を収めました。引続き兵庫、京都両支部に於ても下記要項で開催されますので奮って御申込み下さる様御案内申し上げます。

●兵庫支部関係●

1. 名称 コンクリート技能講習会

1. 日時 11月中旬の3日間(開催日決定次第御申込者に御通知申し上げます)

1. 会場 兵庫県建設業協会集会所(神戸市生田区下山手通5-23-19織間屋街23号)

1. 日程、科目、講師

第1日 午後1時～3時 試験法 3時～5時 材料(セメント・骨材)

神戸大学教授 工博 伴 潔氏

第2日 午後1時～3時 工法(材料の貯蔵・計量・混練機具・調整)

株式会社大林組研究室 菅田 豊重氏

3時～5時 材料(水・混和剤・調合)

兵庫県建築課長 森田 康次氏

第3日 午後1時～3時 工法(型枠・鉄筋・運搬・振動打・養生等)

清水建設株式会社 金子 豊氏

3時～5時半 工法(耐力壁式鉄筋コンクリート構造の要点等)

株式会社竹中工務店技師長 日野 勝好氏

1. 申込先 日本建築協会兵庫支部(神戸市生田区下山手通5-23-19、兵庫県建設業協会内)

1. 定員 70名(会場の都合により定員に達したときは先着べ切ります)

1. 会費 700円(テキスト"コンクリート施工指針代"を含む)申込と同時に納入願います。

●京都支部関係●

1. 名称 コンクリート技術講習会

1. 会期 昭和29年11月2日～6日「3日は休」4日間

(講義) 11月2,4,5日(3日間)毎夜2時間半(午後6時～午後8時半)

1. 会場 第1日より第3日迄 京都建設会館二階(京都市中京区押小路通柳馬場東入)

1. 日程、科目、講師

第1日 11月2日(火) 材料及試験法

大阪大学工学部教授 工博 奥島 正一氏

第2日 11月4日(木) 水、混和剤、調合

京都大学助教授 岡田 清氏

第3日 11月5日(金) 施工法

京都工芸繊維大学講師 井手 正雄氏

第4日 11月6日(土) 実習及見学 京都大学工学部研究所及工事現場

1. 皆出席を為し本講習を修了した人には最終当日修了証書を差し上げます。

・申込先 日本建築協会京都支部(京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館内)

・定員 申込先着70名(会場の都合により定員に達したときは先着べ切ります)

・申込期日 10月25日

コンクリート技能講習会受講申込書

No. _____

現住所			
勤務先 (会社名及所在地)			
最終学校名	連絡先 (電話番号を記入)	年	令
氏名	印		

昭和29年 月 日

日本建築協会 兵庫支部 御中
京都支部

申込者

印

本会災害委員会において、調査、検討中の老朽住宅について、住宅問題上また保安上、洵に寒心に堪えないものがあるので、9月27日下記の陳情書を、大阪府会議長並に大阪市会議長宛に夫々提出陳情した。なお衆議院、参議院、並に建設省への陳情について、目下建築学会及建築士会と交渉中である。

老朽住宅対策に関する陳情書

日本建築協会 会長 竹 腰 健 造

本会は戦後の再建に当つて最大急務の一つである住宅政策において従来殆んど放任状態にある老朽住宅対策のため、次の事項を要望するため陳情する。

陳 情 事 項

戦災により国民は未曾有の住宅難に遭遇しているが、幸いにして戦禍を免かれた住宅についても、木造家屋にとつてかくべからざる維持保全が殆んど不可能な状態にあるため、年々その命数を縮めており、風災、震災をこうむるまでもなく、自然崩壊を待つ状態にあるものも少なからず。激しい住宅難の未だ続いている今日、既存住宅の自然滅失を防止することは、住宅政策上からのみならず、災害防止、人命保護の上からも緊急の要務である。これがため、住宅供給政策を更に強力に推進せられるとともに、次の如き政策の速やかなる実現につき善処せられたきこと。

1. 倒壊危険住宅に対し保安上の応急施策のみならず不良住宅地区改良法の改正等、凡ゆる根本的施策を講ずること。
2. 既存住宅の修繕に対し融資等助成施策を講ずること
3. 貸家企業の助成を図るため、課税の減免、所得税の改正等税制一般について検討すること。

理 由

1. 昭和28年度住宅調査によれば、全国市部における危険又は修理不能の住宅は193,000戸の多きに達している（内100,000戸は民間貸家）。大阪市を例にとれば右調査による危険または修理不能住宅は、六大都市中の最高率を示し、総住宅戸数の約3%、14,000戸を算えており、このうちとくに危険度の高いものは別途の資料によれば、5,000~6,000戸に及ぶものと推定される。事実老朽住宅がとくに風災震災等の天災によることなく、自然的に崩壊する事例は少なく大阪市内においては戦後6年間に300戸にも及んでいる。また今回の台風14号の襲来に際し、同市において避難者が110,000名にのぼつたという事実も水害の不安による避難もあろうが、住宅に対し保安上の危険を感じた市民も多数であり老朽危険住宅の多い一つの証左であろう。これら危険度の高い老朽住宅に対してはすみやかな政策が要望せられるが、前記の全国市部における193,000戸中の過半数を占める100,000戸は貸家住宅であり、したがつてこれの処理については、家主、居住者の両者に対する措置を必要とし事態をより一層困難ならしめる。これら多数の老朽住宅に対する施策としては、建築基準法第10条の発動とその裏付としての収容住宅の供与による方法も考慮すべきであろうが、根本的対策としては老朽住宅一般に対して、不良住宅地区改良法の如き強力なる立法が要望される次第である。
2. 更に前記の調査によれば、修理の要ありと考えられる住宅は1,947,000戸という莫大な数にのぼっている。この様な多数の既存住宅が現在適切な措置のないまま、全く放任状態にあり、遠からず、危険住宅となり事態を益々困難ならしめることが予想される。これを救うためには、既存住宅の修繕に関して、速やかに融資等の強力なる施策がとられることが必要である。
3. 戦後の住宅政策においては、幾種類かの住宅供給対策が講ぜられているが、その中軸をなす公営住宅の建設にしても極めて僅少で、火災、天災等による滅失戸数の補充にすら不十分な状況であり、一方戦前において、都市住宅の主力であつた貸家は、これが企業的に成立し得ないような現状にあるため、この面に於ける供給は、殆んど望み得ない状態である。このため住宅難は依然として深刻を極めている。住宅難の軽減のために公営住宅、公庫住宅の建設を拡大促進することが最も必要であることはいふまでもないが、同時に民間貸家の増築も甚だ必要とされる処である。漸く最近、大都市において僅かながらも貸家建設の動きが見えはじめたことは誠に喜ばしい次第であるが、更に強力なる助成政策によつて、その建設が益々推進せられることが要望される。

以 上

大和常務理事退職慰勞金第一回申込者芳名

(領 收 分)

中 村 綱 殿	1,000.-	島 田 時 隆 殿	1,000.-
木 島 徳 太 郎 殿	1,000.-	加 藤 宣 彦 殿	1,000.-
池 田 商 事 株 式 会 社 殿	1,000.-	株 式 会 社 立 花 商 会 殿	2,000.-
新 井 辰 一 殿	1,000.-	鴻 池 藤 一 殿	5,000.-
遠 山 勇 吉 殿	1,000.-	横 尾 義 貫 殿	1,000.-
柴 川 伝 槌 殿	2,000.-	鈴 木 末 尾 殿	5,000.-
今 西 茂 雄 殿	1,000.-	佐 々 木 保 殿	500.-
理 研 銅 機 株 式 会 社 殿	4,000.-	汎 建 製 作 所 殿	5,000.-
伊 藤 長 次 殿	1,000.-	木 村 喬 夫 殿	500.-
高 岡 与 三 吉 殿	1,000.-	相 沢 喜 久 太 郎 殿	1,000.-
吉 本 政 次 郎 殿	1,500.-	松 田 昌 平 殿	500.-
圓 堂 政 喜 殿	500.-	玉 置 産 業 株 式 会 社 殿	2,000.-
籤 中 一 良 殿	1,000.-	株 式 会 社 高 島 屋 工 作 所 殿	4,000.-
村 上 徹 一 殿	2,000.-	増 井 敏 克 殿	1,000.-
永 浜 泰 三 殿	500.-	藤 原 巧 殿	500.-
田 口 信 夫 殿	500.-	福 山 類 三 郎 殿	500.-
株 式 会 社 三 晃 商 会 殿	30,000.-	日 本 建 築 協 会 事 務 局 職 員 一 同 殿	2,000.-
久 良 知 丑 二 郎 殿	1,000.-	奥 村 安 太 郎 殿	2,000.-
角 尾 篤 彦 殿	500.-	益 尾 辰 雄 殿	1,000.-
黒 川 健 二 殿	500.-	村 野 藤 吾 殿	1,500.-
山 田 良 次 殿	1,000.-	山 中 茂 一 殿	1,000.-
内 藤 良 多 仲 殿	1,000.-	森 忠 一 殿	1,500.-
川 村 統 之 殿	1,000.-	福 田 萬 亀 雄 殿	1,000.-
藤 岡 正 一 殿	5,000.-	宇 部 厚 型 ス レ ー ト 株 式 会 社 殿	2,000.-
八 木 繁 志 殿	1,000.-	株 式 会 社 大 阪 電 氣 商 会 殿	33,000.-
飯 田 栄 一 殿	2,000.-	田 中 治 雄 殿	1,000.-
大 井 弘 治 郎 殿	1,000.-	西 村 勝 殿	1,000.-
竹 内 さ く 殿	1,000.-	菊 地 庄 太 郎 殿	300.-
三 菱 建 材 合 資 会 社 殿	2,000.-	岡 本 進 殿	1,000.-
大 下 順 三 郎 殿	2,000.-	元 良 勳 殿	500.-
山 口 吾 郎 殿	1,000.-	坂 静 雄 殿	500.-
株 式 会 社 荏 原 製 作 所 大 阪 事 務 所 殿	4,000.-	畔 上 真 治 殿	1,000.-
株 式 会 社 片 山 鉄 工 所 殿	4,000.-	中 沢 誠 一 郎 殿	1,000.-
株 式 会 社 建 材 社 大 阪 支 店 殿	6,000.-	樺 田 藤 郎 殿	1,000.-
工 学 院 大 学 校 友 会 殿	5,000.-	福 島 産 建 工 業 株 式 会 社 殿	2,000.-
上 西 圭 治 殿	1,500.-	淡 陶 株 式 会 社 殿	10,000.-
佐 野 時 平 殿	1,000.-	黒 川 己 喜 殿	500.-
清 水 一 雄 殿	2,000.-	桑 山 音 吉 殿	1,000.-
寺 戸 常 三 郎 殿	500.-	村 井 毅 殿	2,500.-
島 田 良 馨 殿	500.-	大 沢 広 吉 殿	1,000.-
青 盛 繁 男 殿	4,000.-	藤 井 稔 殿	1,000.-
松 本 幸 夫 殿	500.-	安 宅 順 一 殿	1,000.-
妹 尾 一 夫 殿	2,000.-		

会

告

島田啓太郎殿	1,000.-	城口研究所殿	4,100.-
市川春吉殿	1,000.-	奥村重兵衛殿	10,000.-
近畿電気工事株式会社殿	30,000.-	工藤甚五郎殿	1,000.-
木下謹三殿	2,000.-	西原衛生工業株式会社殿	12,300.-
佐藤太殿	2,000.-	栗原電気工業株式会社殿	20,000.-

合 計 ￥ 286,200.00

以上御申込金正に受領仕りました。

(申 込 分)

竹腰健造殿	50,000.-	小早川美武殿	5,000.-
大林芳郎殿	10,000.-	日野勝好殿	1,000.-
東畑謙三殿	10,000.-	株式会社ケントク殿	20,000.-
東畑建築事務所殿	10,000.-	株式会社平川鉄工所殿	2,000.-
今田隆人殿	1,000.-	日新工業株式会社殿	10,000.-
株式会社浜原豊商店殿	2,000.-	竹林塗装工業株式会社殿	2,000.-
池尻浩殿	500.-	東洋洋瓦株式会社殿	20,000.-
高橋進殿	3,000.-	矢橋大理石商店大阪出張所殿	4,000.-
毛利泰三殿	1,000.-	株式会社山本建材社殿	10,000.-
山本潔殿	2,000.-	志垣正次殿	10,000.-
本多正道殿	500.-	株式会社室谷商店殿	10,000.-
和田友一殿	5,000.-	田島応用化工株式会社殿	30,000.-
井上浄夫殿	2,000.-	株式会社久保商店殿	10,000.-
佐村木実殿	5,000.-	須賀工業株式会社殿	35,000.-
田中清一殿	5,000.-	株式会社平田タイル殿	10,000.-
寺井一勇殿	3,000.-	日本レイヨン株式会社殿	10,000.-
南長吉殿	1,000.-	株式会社大鳥居工業所殿	2,000.-
旭化工板製造株式会社殿	6,000.-	大鳥居満、也殿	1,000.-
若林繁吉殿	10,000.-	工藤電気株式会社殿	20,000.-
白井正朔殿	1,000.-	(以上申込合計金額¥340,000.-)	

以上の通り御申込を受けております。なお引続き到着の分は次号に掲載いたします。又時節柄誠に恐縮至極であります。何卒引続き下記の要項で御賛同賜りますよう御申込洩れの方は至急御知らせ下さいませよう重ねて御願い申し上げます。

要 項

退職慰労金	贈呈に関する事は実行委員へ御一任下れ度し
個人会員	1口 500円 なるべく2口以上希望
団体会員	(会社商店等) 1口 2,000円 なるべく2口以上希望
申込先	日本建築協会内、大和常務理事退職慰労金募集実行委員長宛
払込期間	昭和29年9月より11月末まで
領収書	「建築と社会」誌上に芳名掲載をもつて代えさせて頂きたいと存じます

昭和29年10月

社団法人 日 本 建 築 協 会

大和常務理事退職慰労金募集実行委員長 東 畑 謙 三

不燃建築と新材料講習会

中国及九州地方開催予告

戦後に於ける建築技術者、現場係員並一般建築関係者の技術と質の向上、耐震耐火建築の普及、更に新建築材料の知識の普及を計り一般社会並建築界に貢献せんとする目的のもとに、過日8月20日より大阪に於て開催多大の成果をみた第1回コンクリート技能講座と、新たな構想をもつた「ブロック建築」及最近の新建築材料の説明会を兼ねて下記の通り中国、九州大都市を中心に開催致します。会員各位の絶大な御支援をお願い致します。(10.10記)

・開催決定会場・

岡山市 11月1.2日

広島市 11月4.5日

八幡市 11月6.7日

福岡市 11月8日

講師

大阪大学教授 工博 奥島 正一氏 神戸大学教授 工博 伴 潔氏

(株)竹中工務店技師長 日野 勝好氏 新建築材料関係者数名

共催並後援者 各地元建築士会、建設業協会、その他

開催予定地 山口、長崎、熊本

岡三証券新築社屋見学会

標記見学会を、竹腰建築事務所、(株)大林組の御幹旋で下記により開催いたします。多数御申込み下さい。
尙当日、岡三証券の方より「株界からみた経済界の動向」(仮題)の御話しを伺う予定です。御期待下さい。

日時 10月20日(水)午後2時集合

集合場所 標記建物正面玄関前(大阪市東区今橋2・北浜2電停堺筋南二つめの辻東入り)

会費 30円(なるべく前納のこと) 切 10月19日

・建物概記・ 設計監理 双星社竹腰建築事務所 施行 株式会社大林組

工期 起工 昭和29年9月 竣工 29年10月 鉄骨、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階、延坪578,982坪(基礎) 栗石地形一部コンクリート杭打、鉄骨鉄筋コンクリート(外装) 正面全面及両側一部万成石貼、其の他人造洗出(万成石)、色モルタル刷毛引、全面エバータイト吹付。

十月午餐会

十月午餐会は大阪建設会館で下記の通り開催致します、当日は会食後最近話題に上っている安治川穀物サイロ工事の滑動型枠施工映画を大林組の御好意により封切をすることになりました。何卒多数の御参加を切望いたします。

1 日時 10月28日(木)午前11時30分集合

2 会場 大阪建設会館第一会議室 東区京橋大林組本社西隣二階

3 映画 「滑動型枠施工」 説明者 大林組研究室 菅田豊重氏

4 会費 ￥ 350.00

御申込は会費と共に26日迄にお願いいたします。

5 申込場所 日本建築協会 大阪市北区中之島朝日ビル 電話北浜1334-9

分室 市内東区天神橋詰大阪建設会館一電東861-6

新刊「建物及び設備の保全」パンフレット

吾々の身近にある家具、什器或いは衣類などは平素の手入れが行届いていると、いつも新鮮感を味い得て、しかも之を長く使用する事が出来る。建物についても同様で一層この感を深くするが、竣工当初こそ僅かでも壁や床を傷けぬ様注意しても漸次こういう注意は等閑に附され勝ちの様で、いつしかタイル、木部の汚れ、壁面の損傷、ドア、窓の不工合、硝子の曇り、さては雨漏れによる天井、壁の汚損等が生じたまゝ放置してあるのを時折見かけるのである。之はビルなど営繕とか管理の係りのある所は別として一般には、専門家でないため建物に関する事を知らないとか、手入れの方法が判らないとか其の他面倒くさい等の理由で僅かな事を放つておく為であると想像される。

本会に於ては建物の維持、管理について適当な指針を示すべくかねてより研究中であつたが此度「建物及び設備の保全」と題してこの小冊子を刊行し、聊かなりともこれら手入の契となす事とした。

本書の内容は清掃器材・室内仕上げ材等の手入れ、屋根・外装・木造建物・衛生施設・電気器具・給水設備等の保全消火装置・冷暖房・エレベーター等の管理等を12章、50余項目に亘り余り専門的にせず極めて平易に解説して建築関係者は素より、一般家庭人の参考に供するの外、学生の副教材にも資する様編集したものである。

尚保全手入れに必要な器材、清掃剤名や関係業者は或る程度本文に記載し読者の便宜を図つた本書の内容は未だ十二分でないが版を重ねて万全を期する事とし取敢へずこゝに初版を公にする。大方の参考となるを得ば幸である。

終に本書の刊行に当り多大の御尽力を煩し又貴重な資料を特に御提供賜つた日建設計工務一大井弘次郎氏を初め大林組一谷口尙武氏氏、大阪建築事務所一西岬氏、清水建設一伊藤幸一氏に対し深甚の謝意を表するものである。

昭和29年10月

日本建築協会出版委員会 委員長 工博 奥 島 正 一

日本建築協会出版委員会編

「建物及び設備の保全」目次内容

- 第一章 清掃器材
- 第二章 室内仕上材の手入法
- 第三章 建具の保全
- 第四章 屋根の保全
- 第五章 外装の保全
- 第六章 木造建物の保全

- 第七章 便所衛生施設の保全
- 第八章 電気器具、電気系統の保全
- 第九章 消火装置の管理
- 第十章 給水給湯設備の保全
- 第十一章 暖房、冷房の管理
- 第十二章 エレベーターの管理

A5版 80頁 一部 ￥100.00 会 員 ￥80.00 送料 ￥8.00

申 込 所

社団法人 日本建築協会

大阪市北区中ノ島 朝日ビル内 振替大阪39975番
 大阪市東区天神橋西 大阪建設会館内
 兵庫・京都・和歌山・広島・福岡各支部事務所



大阪での グロビウス

目 次

日本におけるグロピウス特集

建築家と環境.....	グロピウス.....	9
東京におけるグロピウス.....	野生司義章.....	15
近畿地方におけるグロピウス		
その日々の足どりについて.....	川上 貢.....	18
グロピウス氏と遊んだ話.....	白石 博三.....	20
中国地方でのグロピウス.....	佐藤 重夫.....	24
ドイツ時代のグロピウス.....	蔵田 周忠.....	27
紫煙室・倉敷のグロピウス教授		
.....	浦辺鐵太郎.....	23

作品・作風

上野市慰霊塔当選案.....	小倉伝治案.....	2
丸一紡績KK大阪支店.....	宮武保義設計...	3
博多会館.....	竹中工務店設計...	4
日本紡績検査協会新館.....	渡辺建築事務所...	8
見学記：倉紡本社・尼崎麒麟ビール.....		30
建築規準法一部改正他.....	法規委員会.....	31
コンクリート技能講座経過報告.....		32
35周年記念事業決算報告.....		33
会 報.....		35

Contents for Aug. 1954

10

作品・作風

真の現代建築に関する私の見解は主として美学的、技術的、経済的な各々の観点から考へられたものであつて一方的な貢献を排除するものである。と言ふ事は之等三つのすべてを達成することが現代建築の本質なのである。
グロピウス

建築——機能と感触との結晶した人間的空間——それは時代性や風土の条件の中で絶え間のない歩みを続けて居る。本誌は愈々機が熟したので本号から新たに「作品・作風」のページを設けて之と共に歩みたい決意を表明し協会理事会の承認を得た。新建築は東京の一手販売になるものではないであらう。唯一般に言つて関西作品には練りが足りないと言ふ村野藤吾氏の見解を私共は反省しながらも尙この古い文化と実行力を持つ関西一帯の地盤から優れた新作品の発見及び再発見を試みたい。この数ページは建築のコアである。無名の青年作家も巨匠もその作品と共にこのコアに登場して建築を語り又建築以前の問題を作品を通して語られるであらう。あくまで純粋な立場を守り乍ら、私共は関西一帯の作家に広く呼びかけその御協力を得る為に益々努力を重ね建築文化の開花を期待したいのである。

1. 上野市慰霊塔当選案
2. 丸一紡績KK大阪支店
3. 博多会館
4. 日本紡績検査協会新館

写真作品目次

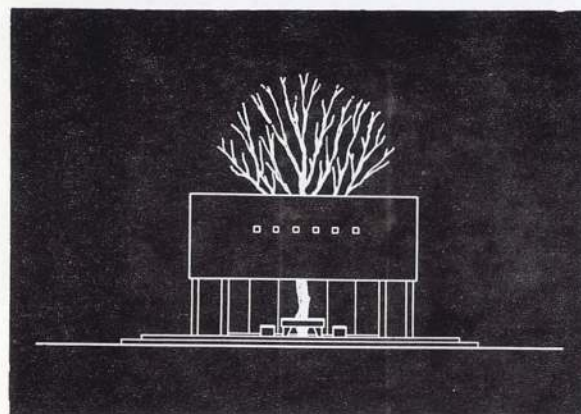
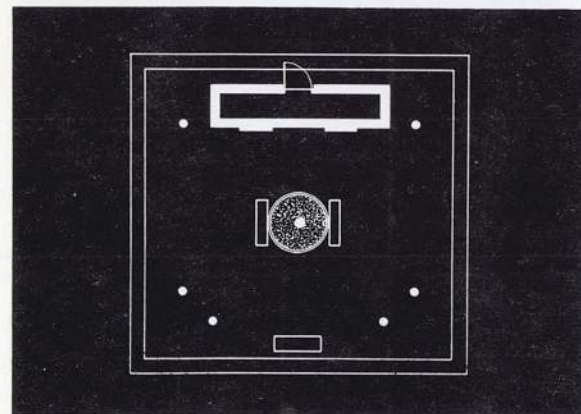
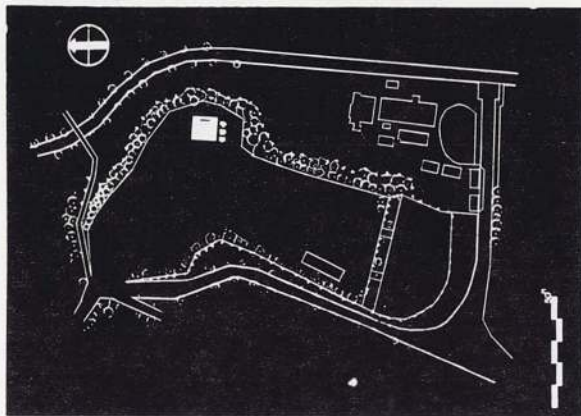
作品・作風担当

- A 浦辺 鏡太郎
- B 岩本 博行
- C 伊藤 幸一
- D 須賀 栄一
- E 横尾 義貫

日本建築協会編集委員会

この月の作品寸評 (A)

1. 小倉氏作(表紙)は秀抜なアイディアに貫かれ NOTHING に通ずるものがある。
2. 宮武氏作は青年らしい新鮮度の高さと大胆細心なる制作態度に今後の期待をかけたい。
3. 岡野、吉木両氏作——多用途を持った建築の表現が経験と工夫によつてよく統一され破綻を見せない。広告塔は作家の意図に反して建てられたもの。
4. 渡辺氏作——整理されたプランとエレベーションの中に殆んど気付かぬ程度の古典的洗練の香りがただよっている。尙、この作品は厳しい予算の枠を守っている。



献 詩

春、丘にさえずる小鳥たちよ
 今日もまた、かわらぬ誓いの歌をもて
 たからかに満ち充たさん、記念堂を

夏、麗わしき太陽のひかりよ
 独りベンチに座して、白壁の樹影に向い
 過ぎし日のことども、語りくれむ

秋、さらさらと散りしく落葉よ
 この四角なる壁の中、我等と伴に
 溢れくる涙、たやすことなかれ

冬、肅々と降り積む雪よ
 ふか深かと、純白の祈りの果てに
 とわの安らぎに、眠れせたまへ

◆意匠

基壇 濠石、花崗石小叩仕上、敷石
 コンクリートブロック
 柱 鉄筋コンクリート核鑄鉄包、油
 性ペイント仕上
 壁 コンクリート打放し、珪素樹脂
 吹付仕上
 名版収納室 壁、天井コンクリート
 打放し、塩化ビニール塗料吹付、
 床、花崗石敷小叩仕上、デッキガラ
 スストップライト付、換気孔取設、出
 入口扉鑄鉄製油性ペイント仕上
 碑壇 脚コンクリート打放し、台座
 花崗石本磨、碑版銅板鍍込
 ベンチ 脚コンクリート打放し、敷
 板檜
 名版収納室前彫刻 彫込みコンクリ

ート打放し、同上部装飾黒みかけ
 磨き、受座ブロンズ

正面壁名版 本石彫込

植樹 けやき

◆構造

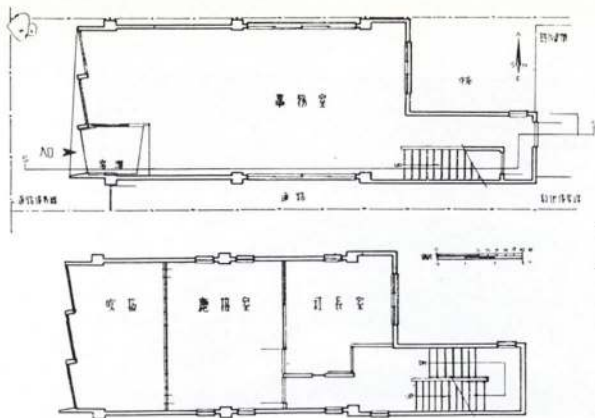
基礎 鉄筋コンクリート独立基礎
 柱 鉄筋コンクリート核鑄鉄パイプ
 包み径250耗
 壁 鉄骨筋産入、鉄筋コンクリート
 厚200耗
 名版収納室 鉄筋コンクリート壁構
 造 厚250耗 布基礎

上野市慰霊塔懸賞競技設計当選案



小倉 伝 治

大正6年生
 昭和23年仙台工専卒
 昭和26年日建設計工務KK入
 社 現在同社東京事務所勤務

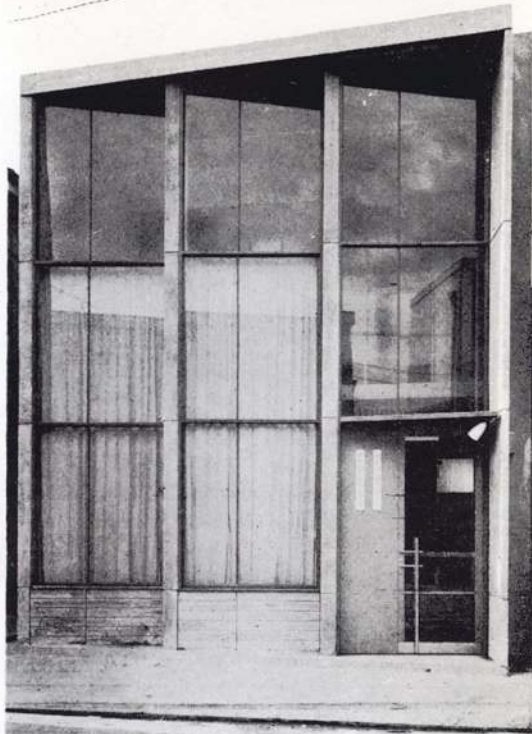


1階
2階

丸一紡績株式会社大阪出張所

設計施工 清水建設株式会社大阪支店

設計担当 宮 武 保 義

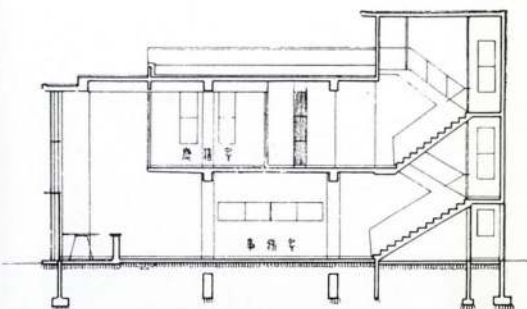
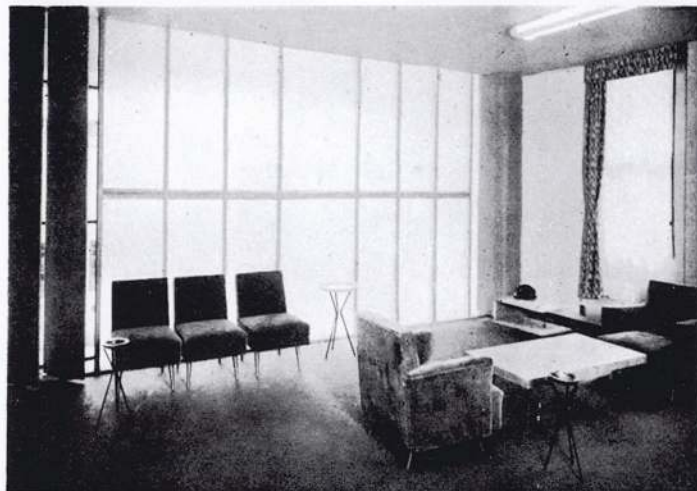
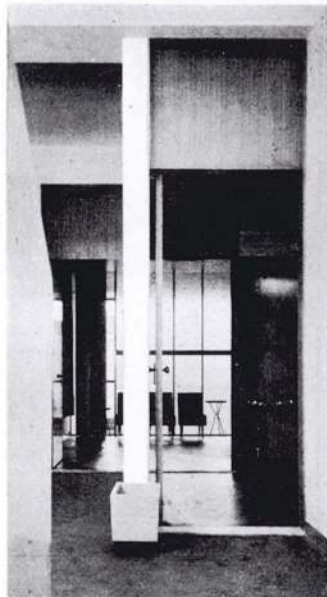
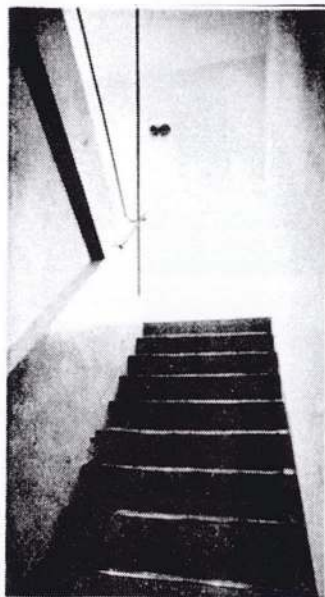


所在地 大阪市東区瓦町4の7

前提 事務所の公的な部分をなす此の建物はその後方に接続された在来の私的な部分と一体になって存在している。敷地が極めて細長い為に、建物はその採光と通風とを側面より期待することは出来ない。

過程 ありふれたデザイン要素(ガラス・スチール・打放レコンクリート、バンド・ヴェール、2灯用スポット)を厳しくそのあるべき処に収めその凡てを調和させること。使用上の心理的機能(細部の全体への調和)に注意すること。例えば輝度対比を避ける様に設けられた採光窓の位置に関連して階段手摺のデザインが決定される。

考察 合理的な構造体が同時に完全な調和を保つ時、建物のデザインはその半ばを終る合理的なものは美しいという言葉にかくれて(選択の自由を許される場合)構造体のデザインを忘れてならない。300×500mmであるべき柱が400×400mmとして建てられた為に、これらの柱が無用の発言をする結果となつたのは誠に残念であつた。





博 多 会 館

竹中工務店設計部

岡 野 寛 次

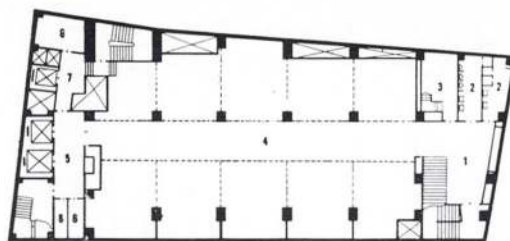
吉 木 寿



建物の概要

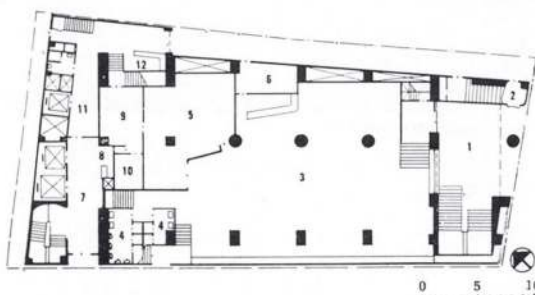
建築地	福岡市東中洲277番地
敷地面積	914.71m ² (276.70坪)
構造	竹中式潜函工法による鉄骨鉄筋コンクリート
階数	地下2階，地上9階，塔屋付
高さ	標準地盤より 31.00m
深さ	〃 12.73m
階別	床面積 (m ²)
塔屋3階	51.08
〃 2階	51.08
屋階	104.20
9階	772.60
8階	756.80
7階	756.80
6階	756.80
5階	535.16
4階	454.09
3階	602.72
2階	842.72
1階	784.52
中地下1階	44.01
地下1階	761.04
〃 2階	642.79
〃 3階	62.92

計 7,979.33m²
(2,413.75坪)



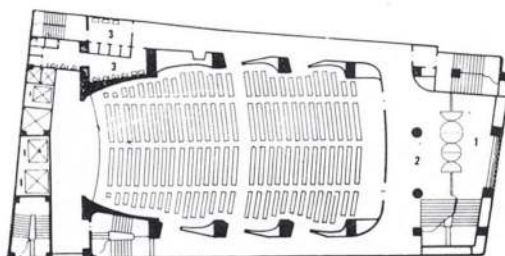
B 1 階

1. ホール
2. 便所
3. ビヤホール 事務室
4. 貸店 舗
5. エレベーターホール
6. 倉庫
7. サービスホール
8. 塵埃焼却場



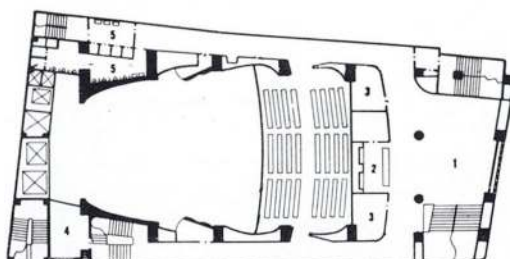
1 階

1. 正面玄関
2. 映画館切符売場
3. ビヤホール
4. 男女化粧室
5. 厨房
6. ビール冷蔵庫
7. ホテル玄関
8. 同受付室
9. 事務室
10. 倉庫
11. サービスホール
12. 守衛室



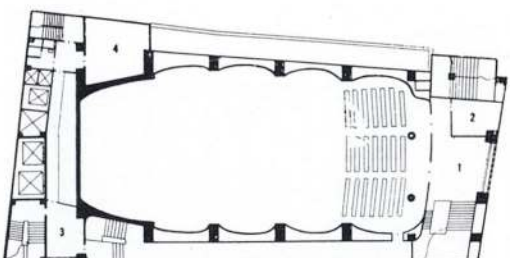
2 階

1. 出札口
2. 口ビ
3. 男女便所
4. スデ



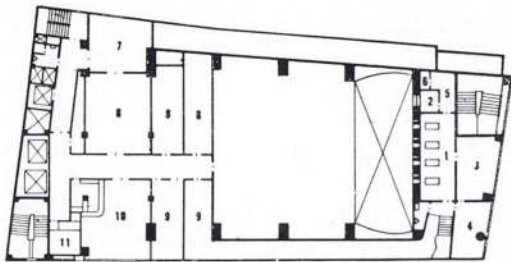
3 階

1. 口ビ
2. 光
3. 倉庫
4. 楽
5. 男女便所



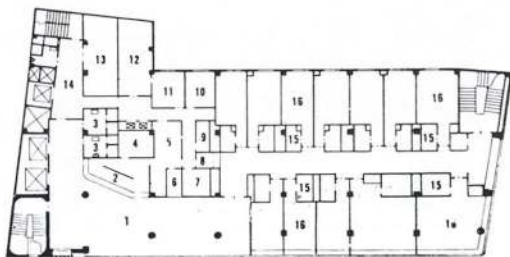
4 階

1. 口ビ
2. 倉庫
3. 事務室
4. 会館事務室



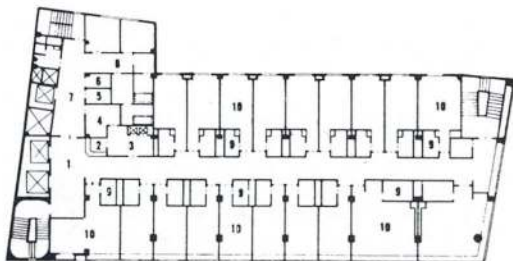
5 階

- | | | |
|-------|---|---|
| 1. 映 | 写 | 室 |
| 2. ミ | キ | 一 |
| 3. 整 | 流 | 室 |
| 4. 校 | 師 | 室 |
| 5. フ | イ | 庫 |
| 6. ッ | ル | 室 |
| 7. ホ | ム | 庫 |
| 8. 同 | 用 | 室 |
| 9. 同 | 倉 | 庫 |
| 10. 同 | ロ | 室 |
| 11. 同 | 食 | 堂 |



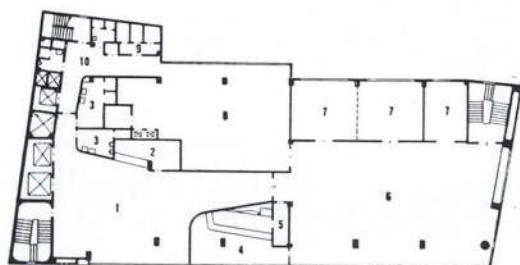
6 階

- | | | |
|-------|---|---|
| 1. ロ | ビ | 一 |
| 2. フ | ン | ト |
| 3. 便 | 所 | 所 |
| 4. 控 | 室 | 室 |
| 5. フ | ク | 室 |
| 6. ボ | ー | 室 |
| 7. ボ | ー | 室 |
| 8. ボ | ー | 室 |
| 9. 配 | 人 | 室 |
| 10. 支 | 接 | 室 |
| 11. 応 | 務 | 室 |
| 12. 事 | 換 | 室 |
| 13. 電 | ホ | 室 |
| 14. サ | ー | 室 |
| 15. パ | ス | 室 |
| 16. 客 | | 室 |



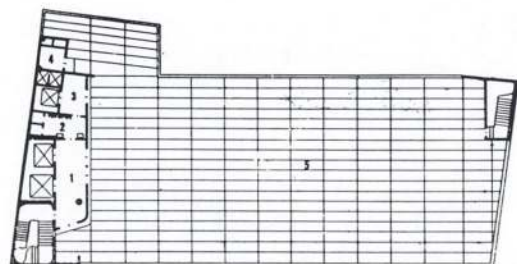
7. 8 階

- | | | |
|-------|---|---|
| 1. エ | ホ | ル |
| 2. レ | ー | ン |
| 3. イ | ス | 室 |
| 4. 配 | イ | 室 |
| 5. ボ | ー | 室 |
| 6. リ | ネ | 入 |
| 7. 掃 | 除 | ル |
| 8. サ | ー | 室 |
| 9. 従 | 業 | 室 |
| 10. パ | ス | 室 |



8 階

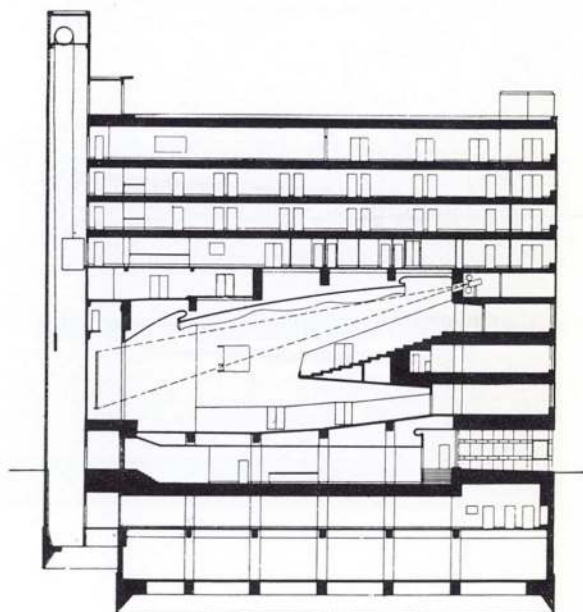
- | | | |
|-------|---|---|
| 1. ロ | ビ | 一 |
| 2. 外 | 食 | 所 |
| 3. 便 | | 所 |
| 4. パ | | 一 |
| 5. 倉 | | 庫 |
| 6. 大 | 食 | 堂 |
| 7. 小 | 食 | 堂 |
| 8. 厨 | | 房 |
| 9. 冷 | 藏 | 庫 |
| 10. サ | ー | ル |



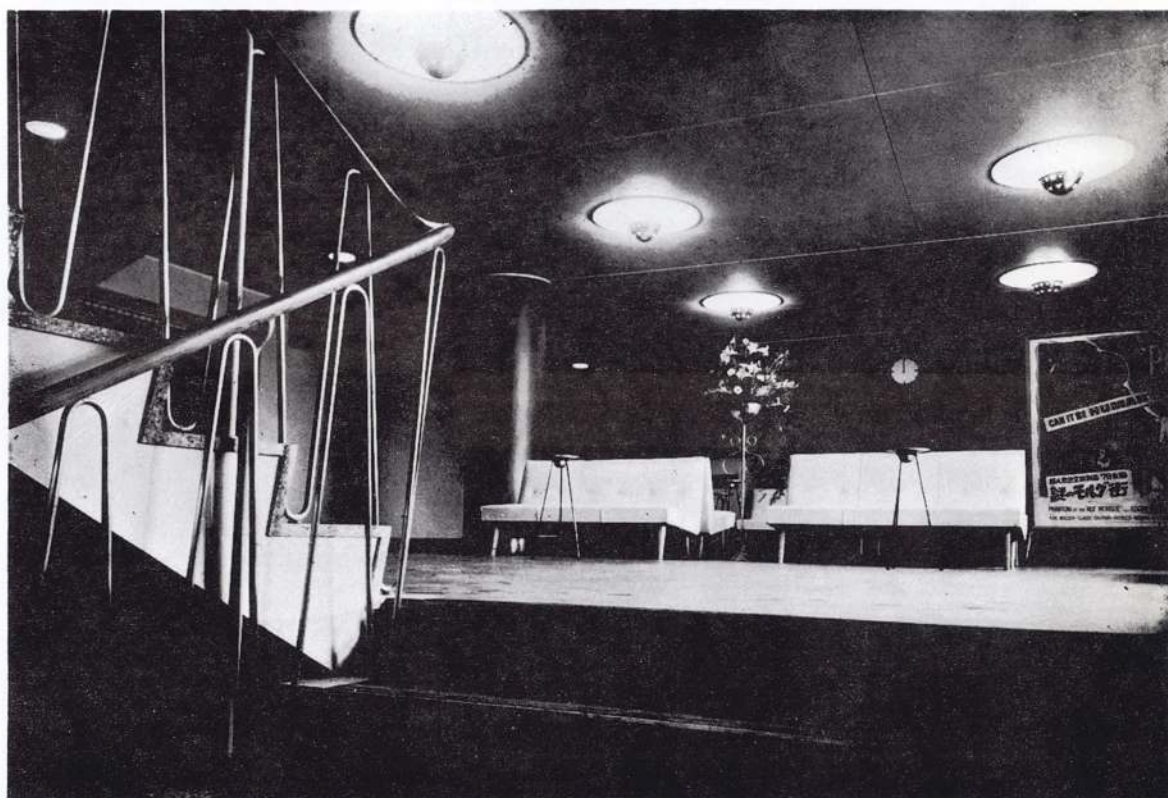
9 階

- | | | |
|------|---|---|
| 1. エ | ホ | ル |
| 2. レ | ー | ン |
| 3. イ | ス | 室 |
| 4. フ | ア | 室 |
| 5. ビ | ヤ | 室 |

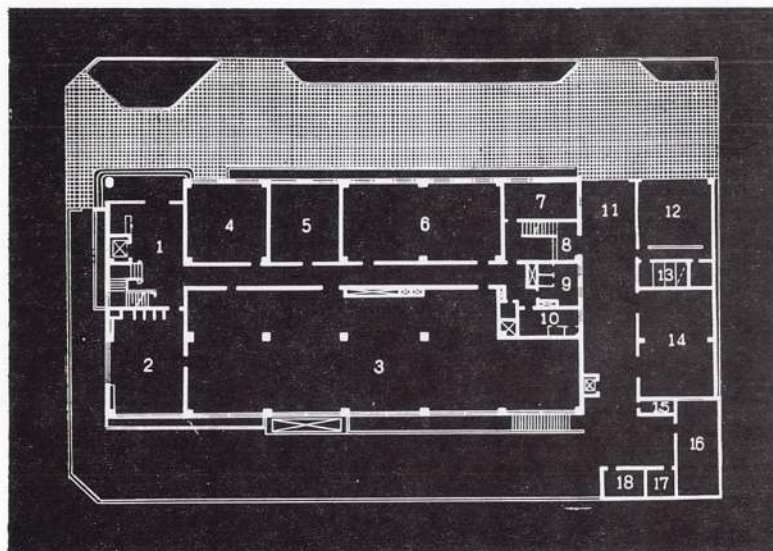
博 多 会 館



3 階劇場ロビー



日本紡績検査協会新館



1	階	ル
1	玄関	ホ
2	役事	員
3	応来	務
4	会湯	接
5	真男	賓
6	男女	談
7	通車	吞
8	運荷	便
9	便倉	用
10	倉物	手
11		解
12		庫
13		場
14		所
15		門
16		庫
17		室
18		置

設計 渡辺建築事務所
渡辺道輝

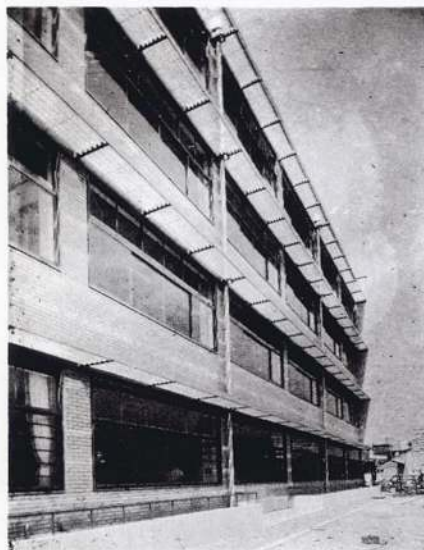


北面→

←南面

概要

位 置	大阪市東区内久宝寺町1丁目25番地
敷地面積	545.14坪
工 期	地鎮祭 昭和27年9月12日 定礎式 昭和28年2月3日 竣工式 昭和28年7月16日
建築面積	建坪 268.16坪 延坪 1,117.88坪
内訳	塔屋 31.78坪 地 階 209.12坪 4 階 202.94㎡ 車庫荷解場 32.82坪 3 階 202.94㎡ 物置ポンプ室 11.16㎡ 2 階 202.94㎡ 硝子屋根 21.74㎡ 1 階 202.94㎡
構 造	鉄筋コンクリート造
軒 高	標準地盤より ベラベツト迄 55.77尺 塔屋上端迄 64.185尺



建築家と環境

——グロピウス教授講演全訳——

本文は、W. GROPIUS 教授が大阪講演原稿として送付されたものの全訳である。尙小見出しは読み易くするために訳者がつけたもの
(1954, 浦辺)

緒 言

今夕の講演に於て、私は建築界、計画界の状態についてありのままを、と同時に、それが、大工業地域の人々をいかに悩ませているかを、お話ししたいと思います。アメリカの傾向が、益々集中化の方向にある時、都市の姿と技術は愈々田舎の地域を取り巻き初めると共に、現代都市の病根即ち無責任性、社会的接触の悪化、そして一貫性もなく、明確な形もない無定形的成長をもたらして居ります。

当地で諸君が問題とされる所は、未だ、工業化がフルスピードに達していない、非常に異つた性質のものである事を私は知つて居りますが、それが故にこそ、諸君は先見と責任のある計画とを以て、私共のすぎ去つた文明が、どこかで犯した失敗を、避けることが出来ると信ずるのであります。

偶々手元にあつた、北アメリカの状況の写真をお目にかけますが、それは、全世界の工業化されたどの地域とも容易に置換えてみることの出来る都市発展の様相なのであります。

建 築 家 と 環 境

1. 現代生活におけるアンバランス

私は特に、目にみえる環境に於ての建築家の役割についてお話ししたいと思います。即ち自然の環境はどんな影響を私共の上に与えるか、建築家や計画者は、いかにして、その環境を改善し、更に大きな便宜と喜びとをもたらすことが出来るかという事についてであります。

よく言われるような、この世の中の荒廃した状態は人々が、自ら招いた欺瞞であります。何故ならば、荒廃しているのはその人間自身であり、世の中ではないのですから。永遠の好奇心から、人は科学者のメスを以て、その世界を切り離すことを学び、その結果、統一に対するバランスとセンスとを失つたのであります。今日その人は困惑の状態にあり、丁度子供が、中にひそむ魔術を発見しようとして玩具のエンピンを分解し、それを再び元通りに組直そうと望みなき努力をしているのに似て居ります。科学時代は極端にまで、専門分化に走り、私共の複雑な生活を本質的に眺めるのを妨げているのであります。

併し乍ら、今日に於て私共は極端な専門化と、それが

もたらす、社会的統一に対する危険な爆発的影響から、そろそろと脱出しようとする傾向を見受けるのであります。私共がも

し、現代文明の精神的地平線を一瞥すれば、多くの思想や発見というものは、嘗て科学が隣接した諸分野から全く離れ離れに観察したところの宇宙現象間の相関々係を見出そうとすることに全く関聯があるのが解るであります。

私が子供の頃には、各部屋にガス栓と石炭ストーヴのある、都会のアパートに住んで居ました。そこには電車はなく、自動車、飛行機は勿論、電話、ラジオ、映画、蓄音器等は何もありませんでした。併し、誰もが、社会がよく統一され芸術と建築とが、文明の緩やかな成長に従つて、人間生活の中で正しい役割を果しつつ、有機的に発展していた数世紀以前の文化的伝統を深く意識していたのであります。

科学の時代となり、機械の発明と共に、私共の打立てた社会の様相が次第に瓦解し始めたのであります。様々な手段や方法が人をとびこえて発展し、産業改革の後半世紀間に起つた疾風の如き変化は、キリストによる人類の結合以来の数世紀より更に深く人類生活に変貌をもたらしたのであります。この大きな発展は私共に生活のバランスを失わしめたように思われます。科学は、人類生活の調和に不可欠な他の要素の上に暗い影を投げかけ、私共は明らかに失われたバランスを再び打立てる為に、教養水準に於ける方向転換を必要とするに到りました。この科学の時代にあつて、芸術家は「忘れられた人々」であり、人々から、からかわれ、社会に於ける余分な贅沢な一員と考えられているのであります。芸術は数世紀以前に既に完成されて、今日では、美術館の中にしまひこまれて居り、私達はそれから、必要な分だけを吸取るものだと考えられているのであります。科学が、物質支配の時代における回答の凡てであると考えられている時、芸術—それは人の作る美です—は益々衰えてゆくものと信じられます。今日、所謂文明人は創造的芸術を、人生の本



大阪講演におけるグロピウス氏

質的なものとして、正直に支持するでありましょうか。

私共は社会の蘇生のため、科学のもつ本質的価値を確かに認めました。併し芸術家の重要さには殆ど気が付かず又生産的生活の目に見える総てのものを含む自然環境のコントロールを仕事とするのは、創造的デザイナー即ち建築家であることにも気が付かないのです。機械により機械化的増殖という科学的方法とは反対に、芸術家の仕事は、生活の共通の現象を象徴化するという問題を偏見なく探求することです。その為には、人生のプロセスに対して、独立した、抑制されることのない観点に立たねばなりません。芸術家は絵人類のプロトタイプでありますから、彼の仕事は、真のデモクラシーのため、最も大切なものであります。そして、彼の直観性は、度をこえた機械化に対する解毒剤であります。

2. 人間的なスケール

私共は工業化以前の時代には、普遍して居つた環境と精神の統一を心にとめて居ります。私共の時代がその統一を失つたこと、混沌とした環境の不健全性その哀れむべき醜悪さ、無秩序というものは、元来、根本的な人類の要求が、経済的、工業的要求の上位に置かれなかつた結果だと感じるのであります。機械の奇蹟的潜在力に圧倒されて、人間の野心は遂に、社会を健全に保たせる、人類の同胞愛の生物学的なサイクルに干渉していつたことは明らかであります。社会の下層階級に於ては、人類は工業用の道具として使はれ、下落していつたのであります。之は、資本と労働間の斗争の真の原因であり、又、社会関係悪化の原因でもあります。私共は今日、社会生活に再びバランスを与え、機械の衝撃を人間化するという困難な仕事に直面して居ります。私共がその生活の中に首尾一貫した社会的パターンを見付けることが出来なければ、すべての技術的、経済的、審美的な進歩は只混乱のうちに失われてゆくだけだということが判つて参りました。私共が環境の再建に成功するための鍵は——それは、建築家の大きな仕事であります——人間的要素を、最も支配的な位置におくことであります。

この古いニューイングランドの町の姿は、非常に完成したコミュニティ精神から由来した秩序と統一を示して居ります。それに反して、個人的妙技の競争がもたらす混沌と、スタイル、材料、色彩の無秩序な斗争というのが、私共の大都市に於ける典型的な町の景観であります。それは、分裂した社会生活の不統一の其の象徴といふことができます。大都会の市民達は、その選出した役人との間に個人的な接触がありません。何故ならば、巨大な行政の巾が人間のスケールを超越して発展してしまつたからであります。オランダの画家Pieter Breughelが描いた田舎や町では、起つたことのない何物か、つまり、社会的孤独とか、無責任とかが拡がりつつありま

す。その田舎や町では、通や広場は社会全体の交通の為適当な通となり、何人もが整然たる群衆の一員として、それに参加したのであります。

併し、Breughelの街の光景に対して、私共の街路は、孤独な外来者達にとつて、単なる交通路に墮してしまつたのであります。自動車を持たない、地方の歩行者は、街の壁に押付けられています。今日、歩行者はその正しい通を返して呉れと要求し始めていますが、之は誠によいデザインであります。

健全な社会の復興は、市民の社会的興味を刺激して、積極的に参画するように、非常手段を講じます。この目的を達成するためには、行政機構を人間化しなければなりません。その基礎は、例え小さいでも、活動的にして正常な社会生活の機関として奉仕するに充分な、自ら制御できる単位の上に置かれねばなりません。責任を分担することは、そのユニットを団結せしめる根本的な要素でありますから、都市に於ても、田舎に於けると同様基本的権威と経済的責任とは、小さな自制的社会の権力を超えてしまつてはなりません。都会、町田舎の何れに住んでいても、その社会の構成は24時間1日のサイクルに合致するものでなければなりませんし、毎日換算するに必要な時間の量は、すべて、30乃至40分以上であつてはなりません。シカゴ人や紐育人の中には、その人生の89年間を、仕事のために、行つたり来たりして過すものがあります。私共は、このことを技術時代の特殊な勝利と考えることは出来ません。自動車や飛行機の代りに、私共は毎日のあらゆる活動を10分か15分歩いてゆける地点に於てなしうるように、環境を組織しなければなりません。出来うれば、働く場所も同様にしたいものです。

3. コアーについて

自らバランスを保つためには、自制的な社会のユニットに於て、商工業の区域を必要とするのみでなく、教育、創造及び信仰の為め諸施設と共に、地方行政と、ショッピングの為のセンターを必要とします。これらの、どの一つを忘れてもなりません。これらの諸施設をもつて始めて、その社会は、社会的接触を改善するよい機会と都会生活を根本的に望ましいものにする見とほしとを持つことでありましょう。僅かの隠遁者を除いて人間は集団生活をする動物であり、その成長は健全な社会生活によつて、常に促進され、改良されるものであります。個人から個人への感化の交互作用は食物の肉体に対すると同様精神的発展のために不可欠のものであります。近隣の人との接触が全くない都会の沙漠の中に只一人残されれば、精神は緩み成長は止まつてしまうのであります。私の研究の結果は、既に数年前に於て、次のような確信を与えました。即ち、復興の過程は、新しい家屋を建てる以前に、先づ、コミュニティ・センターを建てること

から出発すべきである、という事であります。この中心即ちコアは、社会の中に個人の立場をつくり、その社会に対する誠意を発展させ、文化を培う所の基盤となります。この社会のセンターに人々は会合し、意見を交換し、買物をし、そして遊ぶのであります。若し私共がコアの発展に努力すれば、復興を充分促進することが出来るのです。住宅はさけることのできないものでありますから、追加工事として徐々に増築してゆけばよろしいが、公共体の中央機関であるコアは、大切な焦点であり、又、その土地の風格を生み出しがちのものですから、先づ最初にそれを建てるべきであります。そうすると、その周囲に有機的に建てられた家に対して、恩恵的感化を与えるでありましょう。先づ初めにコアから出発するところの新しい試験的な社会をつくるという、私のいわゆる新しい人生の経験は、私共にとって、急迫した要求なのであります。このテストに対して私共建築家や計画者は、市民が、間もなく傍観者から参加者に変るような感化を市民に与える新しい近代的な社会特色を心に描かねばなりません。私は、かかる好ましい傾向は、歩行者に先づ通路の権利を取戻す為の運動によつてスタートするのが、最もよいのではないかと提唱するのであります。アメリカの市民は、誰もが、時には運転手となり、或いは、歩行者となるのですが、自動車や、その運転手のために、万全の策が講じられているうちに、そして、社会を乱すに到つた大きな自動車交通網を作り上げる途中に於て、歩行者はネグレクトされてしまつたのであります。私はこの上に、自動車から離れて保護される、独立した交通網を作ることが必要であると信じます。このようにして、付加えられた、歩行者道路のパターンは、帯状のメインストリートではなく、美しい広場を両端に持つものでなければなりません。其処は、車が入ることを禁じられ、公の意見の交換をしたり、社会的な行事に参加したりするためにローカルセンターとして役立つ所の、一つのユニットの心臓部即ち、コアなのであります。このコアに於て、取引やリクリエーションについての、毎日の社会的交流や地方や世界のニュースに關してのゴシップから、政治が根を張つてゆくのであります。人間のスケールに応じた歩行者の広場は、住民に其処に所属しているという誇りをもたせます。そのコアは、計画者が次の行動のためにぜひ必要な事柄、つまり、一人一人が責任を分担し、良心的投票をし、又、社会を計画することに興味をもたせるようにしてあります。これが、デモクテイクな過程を推進するに最も重要な機関である近代的な広場や社会のコアを作るといふ、私の熱心な言い分であります。コアは社会組織の大きさによつて、スケールが異つて居なければなりません。限られた近隣住区のための小さなセンターから始まり、町、市、大都会の大きさと共に、その規模と性格は発

展し、斯くして、相互に相関聯して異なる文化的重要さをもつ、様々のセグションの中に、一群のコアを持つに到るでありましょう。

新しいコアは、古いものとは全く異つて居ります。私共はこれを一挙に建てることはできません。それは成長しなければならないからです。私共は、ただ、基本的内容をつくることが出来るだけではありません、人々は、やがて、自身の生活の中にそれを取入れ、しかる後に新しい建物を追加するのであります。

今日尙存続している過去のコアの中に、前時代の社会生活を見ることによつて、私共は、多くのものを学ぶことができます。ベニスにある聖マルコ広場は、大宴会と行列の場所であり、政治的文化的な集合の場所であり見るだけでなく、利用すべきものであり、又絶えまなくいろんな変つた光景が永遠に美しい環境を背景として繰展げられ、人々は幸福感にみちあふれてお互を見守り合う、そういう場所だつたのです。この広場は、西洋世界に於てつくられた人造の環境として、最も美しい背景であり、人々の願望や可能性と、ふかいつながりをもつた創造者の優れた幻想の顕れであると私は信じます。この宝石と私共の時代の断片的な発展とを比較してごらん下さい。私共に、不幸にして分離してしまつた全体を一つに纏める新しい合成作用を切に待望しているのであります。その時に始めて、個々の人々は、新しい信念に動かされて、社会の中に統合されてゆくのでありますから。

4. アンバランスの訂正

ブルドーザーで均らした広漠たる田舎にどうして私共は美しい街路も持ちえましょうか、建築作業をスムーズに行うために、樹木は伐り倒され、均されて、その後には開拓者が何百という味のない小さい住居を一杯建てこめます。これでは決して、社会には発展しないのであります。野生の植物や地勢の自然な不規則さは無頓着や、貪欲や無思慮の為に亡ぼされてしまいます。何故ならば、普通一般の開発者は、土地を先づ、商品として認め、そこから最大の利益をかりとろうとするからであります。私共が土地を先づ宗教的に愛し、尊敬しない限り、荒廃は益々ひどくなつてゆくのであります。ここに於て、建築家と計画者こそ、責任ある保護者として、このもつとも貴重な所有者であり、そして自然のすみかである土地を守るべく行動せねばなりません。土地こそ、人間生活の新しい行方ゝの為に、感動的な満足の源泉として、保存し利用しなければならないのです。私共が熱狂的に心血を注いでいるこの行進の中にあつて最も必要と思われることは、どこにでも存在する再生のための源泉、即ち、自然のままだという事なのであります。木々の下できつと都市生活者は、その乱された魂を回復して祝福にみち

た創造的な休憩を見付けるてとでしょう。

私は、建築家たるものは、私共が total architecture と呼んでいる将来社会を組立てるために、非常に広いそして包括的な視野をもつ必要がある事を提唱するものがあります。そして、このような仕事を全うする為には、熱愛者としての情熱を必要とするのであります。私はここで、文明という名の墓石の裏面に刻まれた、いくつかの例証をお目にかけたいと思います。

之は無組織に作り上げられた1953年に於ける、アメリカ、デトロイトの一劃であります。そこでは、住民に社会と呼ぶに価する有機的なパターンを与えようとする徴候は見られません。紐育の Stuyvesant 町は非常に密集地帯であり、このブロックの中に、多くの子供たちが閉じこめられています。それは単にアパートのひどいよせ集めにすぎないものであり、組織などはなく、そういう発展などは、既に始めから欠けていた所の、健全な社会生活が決して発展することのないスラム街なのであります。人口が余り稠密では、恐らく、多くは望みえないでありましょう。将来のデモクラティックな生活に於ける、進歩的なリンクとして形成しようという、住民の側に於ける自然のイニシアティブは、大切な社会的諸施設を排除しようという企てによつて直ぐに消え失せてしまうでありましょう。これらの建物の中に、滅亡の芽は横たわつていたのであります。

ここに過去に於てなされた、設計上での罪の他の一例があります。英国の所謂“by-law street”は一時、進歩的だと賞讃されました。私はこの陰うつな設計が“my home is my castle”という伝説によつて印象づけられているのを見つけ出しました。このような町家の計画により、イギリスのスローガンが親しみを失い、滑稽なものになつてくるのであります。

或いは又紐育の近くのニュージャージーにある不整型のバラック地域を見てごらん下さい。電話ポールは、樹木の代りをなし、生物を发育させようという試みはありませんでした。計画者やデザイナーの想像は個々の家族に単なる家事の道具を準備すること以上には達しませんでした。之は、工業的な組立住宅ではなく、手で建てられた家であることに注意願ひたいのです。

今日でも、工業化された国に於ては屢々見受けられる斯かる発展の途中に於ては、社会的考慮は払われず、煙の多い工業地帯と生活地帯との区別はなく、木や庭もありません。工業上の要求は人間のそれより上位におかれ社会は、この近視眼的視野に対して大なる犠牲を払はねばならないのであります。

過去をふり返つてみて、社会が未だバランスを保つていた工業化以前の状態を、いろいろと回顧し、調査することは、誠によいことであります。南イングランドのベースは過去に於ける、よい都市計画の、私の好きな一例

であります。可愛らしい空地に囲まれた之等、家族の家が、18世紀の土地売買者と独創的建築家とにより、一種のスペキュレーションとして建てられたことは、驚くべき事でありませんか。両者共、人間の生活に対して威厳のある様子を見せているのでありますが、而も彼等は創造的な考えに拘らず、多額の金をこしらえたのであります。

紐育の近くのロングアイランドに於ける典型的な建物の発展は、都市からの逃亡に伴う、投機的な郊外の建物の、統一のない成長を非常にはつきりと示すものであります。樹木は伐り倒され、みさかもなく街路や土地や家は追加されました。絶えずコントロールして郊外地域を維持しようというような、有機的社会の考えを示すものは何もなかつたのであります。地域法 (Zoning law) は大都市に拡がる害虫に対する安全弁ではなかつたのであります。たいていの国に於ては、残念乍ら私的にも公的にも、コントロールされて、よくバランスのとれた社会的有機体へと、その発展を推しすすめてゆくための法的手段が無いのであります。

私共は、ただ単に、その仕事を續けてゆく不動産業者を責めることはできません。彼が無軌道に走らないようにするのは、社会であり、又、私共であります。来るべき複雑な結果を予測することができなかつたので、彼等の行手を阻むことができなかったものであります。救済策としては、人々自身、即ち、私共で計画問題を慎重に理解するように努めることであります。然る後に私共は、適当な折合いをつけるべく、賢明に政府へ圧力を加えるべきであります。このようにして私共の一人一人が、環境を形成する為の道具となることができるのです。

住宅に関する私の活動のいくつかの例について

5. 実例 1. (エレベータ付) 高層アパートの例1930

ある土地に応じて選択される住居型式は、土地の価値と人口密度に関係します。土地の高価な都会地に於てはアパートブロックの型式は、住居に対する合理的な解決法であります。結論として、エレベータ付の高層ブロックは、3、4階建の歩いて昇降する型式よりも良いものです。何故ならば、それは、ブロックの間にある緑の地域のために、多くの費用をかけ、太陽のあたる面積を多くする事ができるからであります。

6. 実例 2. 独乙、ベルリン近郊の Siemensstadt: Walk-up アパートの例

併し、都会に於ても、若し土地の価値が、充分な広さの緑地帯をブロックの間に作りうる程の低い人口密度を許すならば3、4階建の walk-up 型式も都市の住居に妥当な解決を与えうるものであります。

7. 実例 3. アメリカ、ピッツバーグ近郊の Kensington: 一戸建住居の例

土地が余り高価でない郊外、若しくは、やや地方の地域に於ては、庭のついている一戸建の家は、住居のもつとも理想的なものであります。他から隔離し、完全に、それを所有しているという感じや、庭内を自由に歩き廻れることなどは、誰もが喜ぶ財産であります。之は、ペンシルバニアのアルミニウム労務者用の家で、やつかいな坂のある敷地に、私が1941年にプロイヤーと協同で設計建設したものであります。

8. 実例 4. 組立住宅

建築に於ける技術的進歩として工業的方法を用いた組立家屋は、アメリカその他の国に於て既に実際に存在して居ります。人々は、全く革命的な着想として、それを見て居りますが組立に關しての多くの経験から1910年に実験を始めたのですが、私は、急激な革命的破壊を引起さないように仕組まれた緩慢な改革運動として、それを見るようになって来ました。建物のプロセスは、一方に於ては、建築部材の工場生産と、他方に於てはこの様な部材の現場組立に区分することが出来ます。私は、家全体ではなく、建物の部材が工場生産されるという傾向は次第に高まってゆくものと信じます。力を注ぐべきところは此処であります。何故ならば、人は常に人生と全く逆行する機械化を嫌悪するものでありますから、極端に細分された結合のため、競争の立場にある建築工業は、先づ建物の構成部分の標準寸法の数量を減らすことに同意しなくてはなりません。デザイナーや建築業者は、それらを、積木の箱々として自由に組立てることでしょう。交換の自由にできる構成部材は、無限に変化させることができ、又、全く異なる外観と大きさの個々の住居につくり出すことができるのです。

9. 実例 5. 交換のできる構成部材

交換のできる構成部材がどういう意味をもつかという例証として、ここに取換えのできる同じ基本的部品をよせあつめて作った一組のティーポットがあります。私は1922年に解決すべき課題として、パウハウスの陶器工房に之を与えたのであります。低価格と、種々なる外観の二つを併せもつこれと同様な交換部材の方法を私は建築に於ても予測するのであります。私は建築家でありますから、諸君は、私から新しい環境を形成する芸術的趨勢について、又、どんな機械の力をその工程に於て用うべきかについての言明を聞きたいと思つて居られるであります。

10. 標準化について

若し私共が過去をふり返つてみれば、明らかに形の表現の共通性と、個々の変化との二つが共存するという奇妙な事実を発見するのであります。よい標準型を再現し

ようとする願望は、社会の仕事であるように思われますし、又工業化の衝突以前に於ては、ずっとそのとおりだったのです。このような標準の型という考えは、それをつくる方法が手道具であろうと、機械であろうと、それには関係がありません。また将来私共の家が、標準化と組立てによつて支配されることを恐れる必要はありません。と言いますのは、今日機械でつくられた多くの日用品が自由市場で競争しているのを経験している如く、自由市場の自然な競争が、建物の構成部材の個別的種類を維持してゆくでしょうから。文明の機械化前の時代に於ては、広く再現された標準の型が躊躇なく受入れられたのであります。この様な標準化は生産の方法と、生活の方法とから生れてきたものであります。

機械のみによるデザインの繰返しは決して標準をつくりません。何故ならば標準型というものは、むしろ非常に多くの個々のもの、総合を意味し、嘗ての農家に於けるような問題の解決に貢献するものだからであります。過去の町の標準型は技術と想像の良い混合、むしろ両者の完全なる一致を示しています。これこそ私共が再び努力すべきもののなのであります。

之等の姿はその時代と地方とを特色付ける所の共通分母を示すと同時に荘厳であり、又生々とした極めて個性的な変化をも示して居ります。

産業革命の時代には、建築が社会との接触を失つた為に、只審美的な目的のものとなつてしまつたのであります。建物の外観的裝飾は有機的な近隣のパターンの中の一つの単位として随所に用いらるべき表現として発展しないで、附近の建物と競い合うように工夫されたのであります。共通分母を探究する代りに、異つたものを強調することは、建築家の最近の傾向であります。建築に於ける新しい哲学は、人間と社会との要求の優れていることを認め、その要求をみたす為に近世の手段として機械を受入れています。私共は簡単な組立建築の要素は、用と美と両方に仕えうるものと確信して居ります。

併し、若しこれらのものが絶えずチェックされ、更新されなければその標準は無効なものになつてしまします。過去の標準にマッチさせるように試みることは無駄な努力であります。私共が賞讃し描写しようとする偉大な時代は、丁度それが同じ古い建物の上に増築されたような場合でも、決して過去から借りてきたものではなかつたのであります。伊太利のベルガモにあるこの教会は建物の一寸した部分にロマネスクとルネサンスのパートを用いて居ります。

11. total architecture

さて現代建築の特色は何でありましょうか。私の仕事の例をいくつかお目にかけようと思います。

Fagus 工場

1910

独乙ケレン、ヴェルクヴェンド博士の事務所及工場 1914
ク デッサウバウハウスの建物

Total Theatre

嘗ては地球の重心の法則を強調したのに対して、今日の創造的な建築家は外観の軽快さを創造する新しい建築技術を誇らしげに応用します。「cantilever」の建築部分と「hovering slab」とは、重力の法則を否定しているように思われます。全世界に向つて開放感を伝える為に、彼等は様々な必要に応じて自由に開閉のできる広い窓面を作ります。室外の居住空間と融合した室内は、新しい仕事として斯様に作られたのであります。空間は浮動するようになってきました。

近代建築を単なる合理化運動とみなすことは、馬鹿げた事でありませう。そうではなくてその創始者は、計算によるより寧ろ創造的な近道を用いて感情と技術との融合に向つて力を注いだのであります。それをインターナショナルと呼ぶのも同様に馬鹿げた事でありませう。ワシントンのナショナルギャラリーに於て、クインターナショナル様式と私が称する一例を見られるのであります。私はその中に本当の建築の例を見ることが出来ません。それはむしろ考古学の応用にすぎないのであります。そのデザインはギリシャから借り受けたもので、世界のどこに於ても見ることの出来るものであります。これに反して、近代建築家は自分が属する地域の固有的な要素から追求を発展せしめるよう試みることであります。

創造的技術の影響を強く受けたモダンな建築物の表現を私共はよく見かけますが、新しい建築は建物の骨組から成長するものであり、その要素は元来装飾的なものではなく、本質的なものであります。

Esders デパート: Paris : Perret 設計

飛行船ホール : Orly : Freyssinet(フランス)

ツェイス ドーム : ドイツ

Round House for engines: Bethune (フランス)

Exhibition Hall & hangar constuction : Turin

(イタリア) Nervi

Massachusetts のグロピウス邸: (アメリカ)

Belmont の邸宅 : Massachusetts : TAC

Harverd Graduate Center: Cambridge (アメリカ) : TAC

McCormick office bldg. のモデル (シカゴ) イリノイ州 : TAC

Boston Center のモデル : Boston, Massachusetts : TAC

現代建築は使用される技術方法よりも寧ろ近代建築がそこから成長してくるべき新しい精神にその基礎をもつてであります。この新精神はその建築的表現を新しい生活方法から導き出そうとして居ります。従つてその根源は社会的な性質をもつものであり、人類の発展に最

も役立つ生物学的文化的要素を推進する有機的社会を作り上げることを意図したものであります。

ク真の近代建築クに関する私の見解は、主として美学的、技術的、経済的な各々の観点から考えられたものであり、一方的な貢献を排除するものであります。というのは、之等三つの総てを達成するということは近代建築の本質なのでありますから、若しこれが再び有機的な実体となれば、それを以て私共の近代生活の本質的部分とする必要もない訳であります。

このように見てきますと、機械製品やクハンマーや釘クなどが近代的な建築物に使用されているかどうかの問題は単に二義的な重要さにすぎない事は明らかであります。何故ならば技術は、近代建築の精神に従属しなければなりませんし、又地方の諸条件の上に根底をおかねばならないからです。若しデザイナーの精神が本当の近代感覚に欠けて居れば、最も進歩した機械で作つた部品を使用するとしても、そのデザインを真の近代建築とすることはできないのであります。これに反して、たとえそれが古い機材や工法のものであつても、本当の近代精神をもつた創造的建築家のタッチによつて生氣を取戻し新らしくなるのであります。

雨もりのない屋根を持つことが幸福な生活のための最も重要な要求であると考えたがる建築家があります。併し私共は例え雨が降らなくなつても、それは必ずしも幸福な人間の気候を創るものではないことをずつと以前から気付いているのであります。

でありますから、私は私の基本的な信条を確認したいと思ひます。即ち美の創造、価値と標準を作り出すことは人類の衷心からの願望であり、そしてそれは慰めの満足より以上にもつと深く永続的に人類を動かすものであるということでもあります。雨もりのない屋根を蔽ひのない幾百万という人々の頭上に置こうとする日々の斗いの中で私共は、このことを余りにも易々と忘れてしまつていたのであります。来るべき時代の建築家のインスピレーションは彼等を導いて既に行きわたつて居る所の見栄を張つた個人主義へと到らしめるよりも寧ろ、全体の為に共通した表現をとらしめるであろうことを私は信ずるものであります。そうすることにより、建築は再び私共の人生にとつて不可欠なものとなるのでありませう。

最も端的に申せば、建築は有形なものを通して無形なものを表現する、ダイナミックな巾を持たねばなりません。芸術家の創造的行動によつて、建築物のうちに内部の材料が生命をもつてくる時に於てのみ夢と精神的斗争に対する人間の願望とが、その物質的な喜びの充満を遙かに超越して満足されるのでありませう。そうすることにより、私共は美しい環境の創造の為に一步を進めるといふ、真の建築つまり私の所謂 total architecture を経験するのです。(終)

東京におけるグロピウス

野生司義章

5月19日、6時30分暮色せまる羽田空港に、南の空からノース・ウェスタン DC4 が、ふわりと着陸した。はじめから数人目に、写真で見えるように襟ネクタイをした紳士が夫人の腕をささえて降りてきた。考えれば、ながく待ったグロピウス夫妻その人であつた。入国手続に30分余りかかつて、グロピウス教授はロビーに出て来た。なん年ぶりに会う出迎いの蔵田、山脇、水谷、山口氏等の顔には、バウハウス時代の彼とくらべてか、一入感慨深いものがあるかのように見うけられた。萩氏の通訳で新聞記者との会見があり、その後帝国ホテルに向い、おつかれの様子なので、いろいろの話は明朝ということにして、一同帝国ホテルで別れた。

5月20日正午、芝のハンニャ苑で国際文化会館主催の午餐会があつた。絹糸のような小雨煙る庭の縁に、そして大きくあけ開いた日本座敷の美しさに、大変心うたれたらしく、自分の在日第1日にこのような美しいところに招待されて、非常に感慨深いものがあるといつて大変よろこばれていた。在京第一日箸の使い方を習う。なかなかうまく、すき焼を食べることができなくて、おなか一杯にならなかつたらしい。

5月21日、国際文化会館でグロピウス教授を交えて、今後のプログラムをねる。

5月22日、建築学会の年次大会の第1日、東京会館で学会のコン親会兼グロピウス教授歓迎会を開く。石井会長の歓迎の挨拶の後、グロピウス教授立つて、日本建築の開放性、豊のモジュラー・コオーディネーションを語った。伊藤前会長、岸田教授、山田守氏の歓迎挨拶があつた。

5月23日、国際文化会館理事長松本重治氏夫人の案内で、護国寺に、裏千家のお茶の会にまねかれた。

5月24日、神田、共立講堂で講演会をひらく、会衆実に5000人を越す。入場を残念ながら断るものもでる程の成功であつた。佐藤武夫氏の紹介講演、小池新二氏の通訳によつて、グロピウス教授の「建築家と環境」というスライド付の講演があつた。グロピウス教授としても、こんな大会衆に講演したのは、さぞかし初めてであつたことだろう。日本に建築の学生の数の多いのに驚いていた。

5月25日、国際文化会館で、小林文次氏のスライドでグロピウス教授に一応の日本建築史概要の説明をした。

5月26日、NHKの教養大学のプログラムとして、教授の「バウハウスと私の考え方」という講演を小林文次氏の解説で録音した。午後は水谷武彦氏の案内で国立博

物館に行く。晩はハーバード・クラブの晩餐会に招かる

5月27日、上野の芸術大学で工芸関係の集りがあり、工芸作品の陳列を見る。

5月28日、通産省の工芸指導所を訪問す。近所の名もない神社に教授は興味をもつて、写真を数多くとる。

5月29日、たまたま在京中のペリヤン女史に招かれて週末旅行に銚子に行く、西欧文化に汚されていない農村漁村を見、日本の田舎旅館で浴衣を来たことを、こよなく喜んで、その後もよくこのときの話をしている。

5月31日、柳宗悦氏の民芸館を訪問、柳氏、バーナード・リーチ氏と懇談す。夕方は山脇邸に招かる。バウハウス時代のおもかげ濃く、20年も前から写真でこの家をよく知つていると大変上気嫌であつた。

6月1日、前川、坂倉、吉村3氏協同設計になる国際文化会館建築用地を視察す。

6月3日、観世会館新築記念の能を見学。

6月4日、歌舞伎を見学。

6月5日、建築学会主催の講演会、国鉄労働会館で開催、会衆500余、入場制限で大部もめる。萩氏通訳でスライド付の「デザインの科学はあるか」の講演あり、主として視覚の問題をとりあつた。

6月12日、国立近代美術館主催のグロピウスとバウハウス展招待日に来場、バウハウス展として未だ曾つてない最良の展覧会だと激賞、思い出深そうに感激していた。日本にバウハウス参考資料の豊富にあるのに驚いていた。午後同館講堂で、小林文次氏の通訳で「バウハウスの考え方」という講演をした。

6月14日、日本相互銀行本店、中央厚生年金病院を視察、大映本社に「七人の侍」の英語版の試写を見る。夕方は在日建築家の会である極東建築士会の晩餐会に出席。

6月15日、剣持、渡辺、柳氏の案内で竹細工場、桑沢工芸学校を訪問す。

6月16日、吉阪、市川、日笠氏の案内で、蟻の街等スラム街を視察す。

グロピウス滞日歓迎委員会の出来るまで

昨年11月、国際文化会館から突然手紙が来て、グロピウス教授が5月に来朝するので、歓迎委員会をつくりたいから参集してほしいといつてきた。私たちは勿論この世界的建築家が来る知らせに、よろこんで集つた。グロピウス教授の来日はロックフェラー財団の援助により、国際文化会館の知的交流プログラムの一つとして実現する

ことになった。最初に集った8人の建築家は、多かれ少かれ、グロピウス教授となにか個人的なつながりのある人々であつたが、教授の訪日プログラムを成功に導くためには、個人的な敬愛の情だけでは、どうしても不十分なので、全国的組織網をもつ日本建築学会に援助を求めることが最良の策だということに衆議一致して、国際文化会館理事長の松本重治氏から日本建築学会会長の石井桂氏に協力をかたを申入れた。かくして国際文化会館と日本建築学会との合同委員会が出来て、蔵田周忠氏が委員長に選ばれた。

委員会はさらに、いくつかの分化委員会に分れて、実行方を練ることにした。

グロピウス講演会

グロピウス教授の講演会はどうな風に計画したならば、より効果的であるだろうかと考えてみた。まづグロピウスの英文がかなり難解なこと、次に誰が通訳するかという具体的な問題をよく考えなければならない。概ね英語の達者な人は日本語がまづいし、かりに日英語共に達者であつても、建築のことがわからない。又言葉が出来て建築がわかつても、もし講演内容がひどく学術論文的であつたなら、通訳はほとんど不可能に近く困難になることなどが容易に予想される。教授のためにも、聴衆のためにもよい方法というのは、予め何とかして、グロピウス教授からタイプした講演原稿を送ってもらうにしくはないと考えられるので、早速その旨を教授に手紙で連絡した。教授もその主旨を非常によくこばれて、5つの原稿、シングルスペーシングで75枚もの長文の原稿を送つて来た。そのうちの2つは原文だけで、ゆうに2時間もかかる程で、通訳をつけたら4時間にもなつてしまうがどうだろうかといひ合せてきた。それで私達は通訳は半分程度に省略して、その代り原文のテキストを発行するという方法をとることにきめた。それでも75枚のタイプ原稿は、ひとりで、ゆうに2月は翻訳にだけかかるので、5人にわけて翻訳をし、さらに半分に抄訳することとして、まがりなりにも期日に間に合せることができた次第である。かくして、通訳という特殊熟練工の世話にならず、そして、日本の皆様に、教授の講演の大意を大過なく、おつたえできた次第である。教授は講演に異常な位熱意をもっていることが、来朝後わかつた。というのは、これらの講演はすでに何回となく彼のやつたものにも拘らず、必ず毎講演の前に改めて熱心に準備してその土地の実情によつて、新しいことをつけ加えられた。

グロピウス・バウハウス展

グロピウス・バウハウス展は6月12日から7月4日まで国立近代美術館でひらかれた。この展覧会がひらかれ

るに至つたイキサツは、アーキテクチュラル・フォーラム誌に教授の70才誕生日の祝賀会がシカゴでひらかれ、同時にグロピウス展も公開された記事がのつているのを見た私は、なんとかして、この展覧会を日本にももつてきて、教授の訪日計画をより有意義ならしめたいと思つた。それで教授に私信で、その意向を知らせたところ、こちらからの正式公文書もないのに、早速教授はその時ブラジルに行つている。移動展をすぐ日本に送るように手配してくれた。ビックリしたのは早速委員連であつた。この移動展がどの程度のものかも知らないのに、展覧会開催に要する予算の算出さえできない程であり、まして予算の目当などなく、非常にうれしいながら一寸マゴツイテしまつた。早速何とか予算をたてて、ロックフェラー財団に交渉したところ、多少手間どつたが承認をえて、今度は近代美術館に会場の交渉をし、これも同意をえた次第である。開催約1月前になつて、この移動展だけでは美術館の1、2、3階の全床面積をしめるのには少々足りないというので、1階と3階をグロピウスに関連あるバウハウス展でうめたいという希望意見が美術館側からでた。しかし私たち委員の間でも、はたして1階と3階をうめるだけのバウハウスの資料が1ヶ月の短期日に集め展示計画がたてられるかどうかは、甚だ疑問であつた。とにかく展覧会のための特別委員会をひらいて、討議した結果、山脇、水谷両委員の異常な熱意によつて、バウハウス展を同時に開催しようという結論に到達した。この時私はやはり、ほんのお弟子さんというものの美しい先生に対する愛情を見たような気がして感激した。グロピウス展はどちらかといえば建築を主としたものなので、バウハウス展は出来るだけデザイン一般にひろくわたるようにしたいという意見から、美術評論家でバウハウスにくわしい、勝見氏を委員にむかえ、勝見、山脇、水谷、野生司が展覧会委員となつて、1ヶ月の間になんとか展示の計画をたてた。1階は水谷氏による「バウハウスへのみちしるべ」と題する序曲的な美しい展示にはじまり、2階はグロピウスの移動展であり、これはMITのケッペス教授が移動展用に設計したものを小生がただ会場に合うように配置しただけである。それに蔵田氏が武蔵工大の学生を動員して、バウハウスの模型をつくつて出品してくださつた。3階は勝見、山脇両氏の合作でバウハウスの各部門をよく解説した、すばらしくよくバウハウスのフニイ気をうつし出した展覧会となつた。なお通産省の工芸指導所がバウハウスでデザインされた種々の椅子を出品してくれた。開会の当日グロピウス教授御自身見に来られて、目をうるまし、鼻をくすませて、感激して、自分の今までに見た一番すばらしいバウハウス展だとほめて下さい、愛情だけがこのような展覧会を可能にするといつて下さつた。そして展覧会第1日の午後にはグロピウス教授の「バウハウスの概

念」という講演が小林文次氏の通訳であつて、盛況をきわめた。

グロビウス木場をゆく

1日、萩委員、松本氏令息と私で教授を深川の木場に御案内した。川に浮ぶ輸入材の巨木の筏と材木問屋の前にならぶ、内地材の細い心持材の比較、そしてその違いによつておこる建築工法の必然的な相異などを説明した。それから銘木屋の店に入つた。すると今までの説明が、皮肉にもあだかも、まるきり嘘であるかのように、楠の大木からとつた床板などに驚き、その他床柱、天井板、棚板の一つ一つに目をみはり、一つ一つを手でなで、日本建築が如何に木に深い愛情をもっているかを理解した模様であつた。その帰り途ついでに、建具屋の工場も訪れ、全く手作業による建具の工場生産を見て、日本建築には手作業のうちに工場機械生産の可能性を内包しているといい、あだかも教授の手と機械に関する日頃の意見の正しさを立証しているところでおられた。又その近所にある小さな土管屋の前に立つて、土管、煙突、コンクリート流、溜槽等の安価な既製品を見て、日本では庶民建築においてすでにすべての部分が規格化し、ブリファブされているのは素晴らしいと大よろこびであつた。少しくほめ過ぎられて私たち恥しくなり、いやそれ程でありませんと、教授に過大評価されませんようにとお願いした。

私のみたグロビウス

この度のグロビウス教授の訪日に際して、いろいろの折にお伴して歩いてみて、感じたことを断片的に書いてみたいと思うが、これは全くの私の見たグロビウスで、

正確の程は保証いたし難いものである。グロビウス教授はヘンクツなガンコ親爺だと思う。私のようなナマケ者はグロビウスに直接教えを受けないでよかつたと思つた。なぜならば、あの神経質な程のヘンクツサで毎日叱られたら、私などは、とつとに神経衰弱になつてしまつたでしょう。朝から晩まで（奥様の説によると寝ていても）アゴのわきの筋肉をいつもビクビク動かせ、目をむいて、建築の話ばかりしている。そして建築の話といえ、モジュラー・ココロデザイン、コモン・デノミネイターが必ず出て来なければ、終にならない一徹振りである。社交性に非常にかけていて、5分間位のユーモアのあるテーブル・スピーチが絶対苦手らしく、テーブル・スピーチは極力断り、万止むをえない場合には、ちやんと準備をして講義ばりの挨拶をする程かたくなしい野暮な性格の持主である。この野暮な一徹な性格を裏返しにして考えて見ると、建築の大義名分をはずさずに、一生をかけて、ジックリとトータル・アーキテクチャへの道を歩むグロビウス教授の姿に変わってくるものだと私は信じている。限りある人間の能力を無駄なく、自分の目的のために傾けて、必至のたゆまない努力をしている、巨人の姿を私は発見したような気がして、私は非常にうれしかつた。グロビウスの場合は、タウトのように日本建築について、多くを語らなかつたが、それでも、全く目新しい日本建築に魅せられて賞めすぎているような気が私にはする。その反面、欧米一辺倒の、浮草のように根のない、我国のデザイナーに、伝統という尊い、文化遺産を正しくひきついで新しい発足をすることを教えていつたことを私は感謝している。

（筆者 野生司建築設計事務所）

「日本建築会議結成準備の動き」

すでに、いろいろな建築関係の雑誌に報導されているが、「総評会館建設」をめぐつて、同会館建設協議会が2百人の建築技術者を結集して民主的な設計方式を打ちたてようと努力している。この動きを通じて、いままでの個人的スタンプブレイによる設計をやめて、建築家・技術者と建物を使用する人達、建設する労務者との民主的討論によつて共同設計、民主的な建設方式をおこなうため（それだけに限らない）、更に広く全国的に呼びかけて、「日本建築会議」を結成しようとその準備が進められている。

杭

説明書及び防潮
嵩上、盛土地帯
に於ける実績表
進呈

特許

武智式鉄筋混泥土杭基礎工
日信三角型鉄筋混泥土杭基礎工
コンボジット、パイル（長尺継ぎ）基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社 武智 工務所

取締役社長 福留 並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目宅〇 細野ビル三六号
電話新町〇九 九九五～九九八番

近畿地方におけるグロピウス

——その日々の足どりについて——

川 上 貢

廿世紀にあらわれた偉大な建築家として吾々はフランクロイド・ライト、ル・コルビュジエ、そして此の2月になくなったオーギュスト・ペレーの名とともにワルター・グロピウスを挙げることができる。これらの人々にまみえることは夢に等しいことと思われたが、そのうちの一人であるワルター・グロピウス博士にはからずも接することができ、しかも博士の関西旅行にほんの少しではあるがお手伝いすることができたことは私にとってこの上もない喜びであった。

グロピウス博士が日本に来朝されたのは国際文化会館の日米知的交流事業の一として知名人の日本招請に応じられた結果であるときいている。そして博士はオーストラリアを経由して5月20日に日本に到着されたのである。グ博士の日本滞在中の旅行日程は国際文化会館と日本建築学会両者の共同によって計画された。しかし、関西における日程は日本建築学会近畿支部に一任されたので、学会支部では日本建築協会、近畿ブロック連合建築士会、朝日新聞社等に相談つて、これら四者合同によるグロピウス博士歓迎合同委員会を組織することになり、この委員会において諸般の歓迎準備がすめられた。委員会できり上げられた歓迎行事は主として3つに分たれその各々に小委員会が設けられていた。

- 即ち、 a. 一般講演会小委員会（協会が中心となる）
b. レセプション小委員会（士会）
c. 見学・案内・小会合小委員会（学会）

これらの小委員会で各々数回の会合を開き、学会、協会、士会より選出された委員によつて一応の結論に達したわけであるが、グ博士の東京到着後、博士の希望によつてレセプションや小会合は取止めることになり、いきおい合同委員会の仕事は一般講演会と見学、案内に主力がそまがれた。したがつて、グロピウス博士歓迎の公式行事は大阪で開催された一般講演会のみとなり、合同委員会として関西に在住博士に関心をもたれる多くの人々に公式に提供できた接触の機会とは一回にしかすぎなかった。小委員会においては博士を囲む座談会を2—3回開くよう計画し、そのためには多くの方々の御協力までいたしたのであつたが、博士自身の希望もあり、また博士に日本の自然、社会、そして芸術により多く接していたく機会を多く提供することを考慮して上の計画を中止したのであつた。この機会を利用して、改めて御了解を求めるとともに計画に多く御協力下さつた方々に御礼申上げる次第である。

博士の関西旅行の期間は6月6日京都の地に第一歩を下されてから7月23日東上されるまでおよそ2ヶ月に及んだ。今、ふりかえつてその間の日々の博士の動きを記してみよう。博士は東京到着後、まず京都を見たいとの強い希望をだされたそうで、東京の関係者が組んだ日程では6月17日に来られることになつてた。それが10日も早く6月6日に京都入されたわけで、博士が来日前より日本の、しかも関西の地に如何に強い関心をもつておられたかが察せられる。また博士は日本の芸術に予備知識をもつておられたらしく見学に際しては前以て注文が出された。例えば西本願寺飛雲閣の柳を画いたフスマ絵或いは大徳寺聚光院の狩野永徳の筆になる松を画いたフスマ絵等を見せるよう催促されていた。

6月7日。京都御所、仙洞御所の拝観から博士の見学がはじまつた。博士の見学のやりかたは一般の外人のそれとことなり、案内人の説明をきき、そして見てまわつて終るのではなくして、まず自分が十分に観察してその結果生じた疑問なり質問を同行した人にきくと云つた態度であつた。8日は桂、9日は修学院の両離宮を森蘿博士の案内で拝観された。この折の感想を6月15日付朝日朝刊紙上に述べられている。そのとき仙洞御所の建物についてふれておられるが、こゝではその庭園をみていたくために案内したのであつたが、その建物は御所としては比較的新しく造立されたものであつて建物の様式と内部の家具調度との不調和を指摘されたものも思ひかけぬことであつた。

6月10日。東京における国立近代美術館での「グロピウスとバウハウス展」が6月12日より開かれるので、その開場式に出席のため一旦東京に向われた。

6月20日。名古屋、伊勢を経て再び入浴された博士夫妻は、翌21日早速、竜安寺の庭園を見に行かれた。こゝで博士は印象を強くうけられたらしく、終つて庭園の実測図を入手したいと希望され、そして次の夜の大阪での講演にその感激の一部をもらされたりしていた。

6月22日夜。大阪ガスビル2階講堂に開かれた講演会に出席。この日は午後より雨が降り出して聴衆の出足が気づかれたが、非常な盛況で、午後五時の開場時間前に長い行列がつずき、開場と同時に満員となつた。そして、多数の人が入場を謝絶されるようなことが起きた。委員会での予想では案外聴きに来る人は少ないのではないかと言われていたが、それは見事に裏切られた。

会は日本建築協会尾崎理事の司会によつて始められ、



グロピウス氏と講演会実行委員

右より尾崎、グロピウス、橋本、中西の各氏

国際文化会館を代表して G. T. Bowlos 氏のあいさつ、大阪市大教授滝沢真弓氏の紹介講演があつて、愈々博士が登場された。萩正勝氏の解説によつてスライドの映写をとまなつたところの「社会生活と現代建築」と題しおよそ1時半の長時間にわたつて話された。講演内容については別のところでふれられると思うので省略させていただく。この日に備えて準備にあたられた関係者各位に会が成功裡に終了したことは非常な満足を与えたと思われる。多くの人々の努力に改めて感謝する次第である。

翌23日は朝日新聞社の招きに応じられて大阪市中を見学され、その折の感想はまた6月25日付朝日朝刊紙に特載されている。つづいて24日より京都の古建築や庭園の見物がはじまり、大徳寺に、鹿死寺に、そして苔寺に森博士の案内で観覧された。

6月27日。京都アメリカ文化センターの主催による懇談会が同センターに開かれ、建築や工芸の関係者、そして京都在住の外人達を集めて、博士は「パウハウス私見」と題して小講演をされた。終つて参会者と懇談されている。このときの講演は来日早々、小林文次氏の解説でNHK全国放送で話されたものと同一内容のものである。

6月28日。西本願寺を訪ねられ、この日は能楽の金剛家を訪ねられて能面や衣裳の見学に打ち興じられた。30日には藤原義一博士の案内で二条城での殿舎をみてまわれ、このところ連日見学がつづいた。博士は興にのつたときは非常に熱心に見学されていて、昼の食事が正午をまわつて2時や3時になることがしばしばであつたときいている。あいにくと時候が梅雨の季にあたつていたので、見学に外に出られたときは大部分が雨降りの日であつたのもお気の毒であつた。連日の見学に疲れられた博士がホテルで休養される日に限つてときたま雨が止んで太陽が顔を出すような皮肉なことが起きていた。

7月に入つて、2日には醍醐より宇治方面を見物され宇治上神社拝殿のショウシヤな建築には特に注意を惹かされたようであつて、見学後、わざわざ吉田鉄郎氏の著「日本の建築」(独文)を大学に借りに来られ、見学参考

の資にされたようである。4日は大津に赴かれて、園城寺の勸学院や光浄院の客殿を見学され、これらの主殿系書院造の典型に非常な関心を寄せられ、その見学をよろこばれていたそうである。最近、この光浄院の客殿を縮小した建築が吉村順三氏の設計によつてニューヨークの近代美術館前庭に公開展示された。近着アメリカのhouse+home誌(1954, 6月)はこのことを報じ、そしてこの建築を評して日本においては既に300年も前に最近の建築傾向に照応するすぐれた手法が行われたと伝えている。数多くの我国のすぐれた建築を観察されたグロピウス先生がその成果を建築の上に今後どのように生かされるか大いに期待したい。以上でもつて予定されていた京都における見物を終えられて、博士は7月6日朝、広島への旅に出発された。途中、倉敷に一泊、そして岡山のミシガン大学日本センター訪問を経て広島の講演会にのぞまれた。

7月11日。広島より京都におかえりになつた博士は直ちに奈良に向われた。12日、旅のつかれを休め、13日より古都の見学をされている。13日は法隆寺をおとずれ、竹嶋修理工事々務所長の案内で寺内を見学、そして中宮寺に美しい弥勒の像をたずねて居られる。15日は西の京の薬師寺、唐招提寺、16日は東大寺をそれぞれ浅野清博士の案内で見えてまわられた。16日夜は京都祇園祭の宵山で、京都に戻られ、17日は鉦やれの市中巡行を見物されたので博士の見学プログラムに異彩を加えた。

7月20日。洛北の貴船や大原に農家を訪ねられている。博士はこれらの庶民の住宅にも関心をもたれていて、先に伊勢においでになつたとき漁村を訪ねられたそうである。が、京都におけるプログラムの最後に農村をおとずれられたことも一段とその印象を強められたことであろう。そして、23日朝、関西における一さいの日程を終えられて東京へ発たれた。

以上と博士の日々の足取を記したにすぎず、その言動については常に同行されていた白石先生の別の稿を参照していただきたい。 1954.8.20 記

(筆者 京都大学建築学教室)

株 会 社 大 阪 市 北 区 木 幡 町 三 一 番 地 電 話 堀 川 ⑤ 一 四 〇 一 六 七 四 番	合 理 的 工 法 ・ 責 任 施 工	防 錆 完 全 ・ 中 空 防 音	耐 震 ・ 耐 火 ・ 軽 量 ・ 堅 牢	採 用 下 さ い ・	は 日 進 式 を 御	を ・ 軽 量 鉄 骨	に は 軽 量 鉄 骨	間 仕 切 ・ 天 井

近畿におけるグロピウス

——グロピウス氏と遊んだ話——

白石 博 三

「関西に於けるグロピウス博士」の原稿の一部を私にも書く様にと京大の棚橋先生から川上さんの手を通じて速達の来たのが8月19日の夕方、原稿の締切は翌20日であるという。それでは記憶を整理する暇も何もあつたものではない。然し私は日記をつけないし、記憶力は至つて自信がないから、元来何日間余裕を貰つても記事が正確になる訳ではない。その上私は氏と難しい学問上の話は殆どしなかつた。グロピウス教授でもグロピウス博士でもなく、グロピウス氏と遊んだだけであるから、話が少々でなく相当に間違つても、これが後世の学問に影響を及ぼす事もない。

グロピウス氏に初めて御目にかかつたのは6月の何日だつたか、氏が第1回目に京都に來られた晩で、都ホテルのロビーで関西の旅程や講演会の打合せに皆さんが御集りになつた時であつた。講演会のことが決まり、最初予定した旅程があまり内容盛沢山であり過ぎるから、見学箇所を思い切つて間引いて一日置きに自由行動の日を作ること、討論会の計画は氏の意向で中止することなどがその時決つたと覚えている。講演会や見学には夫々適任者が世話役を引き受けられ、私は自由行動の日に無聊に苦しまれることでもあつたら、適宜御相手をする事になつた。こんな相談のあつた後でグロピウス氏が一寸挨拶にとロビーに來られたので、御目にかゝり名前を名のつただけで御別れした。

二三日だけ経つと、突然電話で今日は雨が降つて外が歩けないから、京都の工芸品を作っている工房でどこか見に行けるところはないかといつて來られた。これはパウハウスのことから、氏は建築に劣らず日本の工芸についても興味をもたれるに違いないと思つたから、京都の工芸の工房で面白そうなところを摘記してお渡ししてあつたので、幾分予定はしていたことでもあつた。然し御承知の様に京都の伝統的な、しかも上質の工芸は需要がなくなつて、何時も仕事をしているとは限らない。しかも幾分変人の主人公が多くて急にいつても見せてくれるとは限らない。だから相当前もつて話をして置いて貰わねば駄目であるとは会を押し置いて置いた筈である。さて困つたと思うが何とかしたい。

そこで陶器ならば急にでも何とかなると考えて知人を煩わし、五条坂のK.K.氏とK.R.氏の工房を見せて貰える様に手配した。K.K.氏は民芸派、K.R.氏は上手の伝統派である。も一つアブストラクトな現代派を入れねばならぬことは承知していたが、手配が遂につかなかつた。そ

れから直ぐホテルへ伺つて、奥さんにも御目にかゝつた。かねて若い頃の写真では仲々の美人であると思つていたが、年とはつてもその面影はあまり劣えず、特にブクブク太つたオバチャンになり易いヨーロッパ人に拘らず、スラリとしてしかも肉付きの良いのに感心した。こういうのを英語でwell keptというのだと思つた。というのが私の英語は、中学校の時にミセス・ウインターボトムなる英国人のオバサンに学校で週1時間英会話をし、高等学校の時には同じく学校でミスター・パーカーの時間があつたきりで、その後はしやべつた経験は殆どない。3年目に一度一時間位話すことがあつたら、次は5年位機会がなかつたりする。読む方だけは豆本の推理小説を平素愛読しているから慣れているが、話すとなると幼児の如くである。そのベビー・イングリッシュで、そもそも日本の陶器はと一席前置きをして早速五条坂へ車を走らせた。

K.K.氏は民芸品の蒐集家としても有名で、御宅も民芸風の建築である。グロピウス夫人は足を以前自動車事故で負傷しておられるので、靴がぬげず持参のカバーをはめて、ステッキをついて畳の上を遠慮しながら上る。上りながら畳の弾力に驚いて質問が出て、畳の端を一寸持ち上げて説明したりする。座について、グロピウス氏はしげしげと周囲を見廻して目を光らす。興味がわくとよく光る目である。室内には御主人の創作品や蒐集品が足の踏場もない程に然し整然と置いてある。そのあれこれについて御主人が話した。その日本語は通訳しないでも半分以上勘で通じる様である。グロピウス氏とは仲々勘の良い人であると感心した。抹茶を御馳走になり歓談一時間位で辞去して次にK.R.氏の御宅へ向う。グロピウス氏は蛇の目の傘をさして歩く。K.R.氏の方は先ず工場から見学した。轆轤、絵付、窯場と見る。絵付では呉須の輸入のこと、ダミのこと等が話になつた。そういえばグロピウス氏はパウハウスで陶器もやつてゐるからくわしい筈である。釉の話が化学薬品名で色々質問され、絵付職人の日給が問題になつた。

それから少し離れたK.R.氏の作品陳列室へ行く。またここで抹茶を出されたので、奥さんが余り何杯も飲むと毒ではないかという。グロピウス氏はここでは少し考え込んで余り話さないが奥さんは快活でよく話す。さつきK.R.氏の乾燥場でアブストラクトの傾向の花瓶の素焼があつたのは面白かつた。あれのできたのはないかという。然しそれはK.R.氏の作風とは違つた傾向のものである。またアメリカの自宅では日常の陶器とし



八瀬にて

機械製品かと思つたが、よく調べて見たら手工品だつた。需要が多くなって高価なものと、機械ではこの様に正確には作られないので手作りです。形は機械で作るか手工によるかで決めるのではなくて、アイディアで決めるのです」と奥さんがいつてグロピウス氏を顧みたら、氏も大きくうなずいていた。この様な氏の考え方はこの時はじめて聞いた面白と思つたが、後になつて同じ様なことを建築についてもいつておられる事が判つた。それにしても夫妻の物の見方、考え方は殆ど一致していることはその後何度感じたことであつた。それから降り続く雨の中をホテルに帰つたが、この日の見学の印象は翌日だつたかの新聞に早速出ていた。アイディアとしては K.K. 氏の作品の方が面白く、K.R. 氏は唯伝統的的技巧に巧みだけである。然し K.R. 氏は勿論 K.K. 氏の現代生活との関連性に乏しいという様な話であつたと記憶している。

その次に呼び出されたのも、やはり予定のない日だつたが、この日はどこか寺を見ようという話なのだ。私は建築史は詳しくないといつたら、それで差支えないのだそうである。寺を見る予定が多すぎるということではなかつたのかとグロピウス氏に同行の萩さんに聞いたら、そうなのだが今日は気が変つたのだらうという返事だつた。では景色も見る積りでまず清水寺へでも行こうとホテルを出たら、智恵院の前でここにも寺があるから見ようという。グロピウス氏は黙々と山門を眺め上石段を上り写真を何枚もとりながら本堂の前へ出た。上つて参観したいというから、これは余り面白い建物でもない様だと萩さん共々いつたけれども、とにかく上ろうという。堂内では僧が1人何か全く判らぬことを浪曲声でうなづいていた。奥さんが何だと尋ねるので長い間聞いていてやつとナムアミダブツを繰返していることが判つた。グロピウス氏は暫くしてから深刻な顔になり大いに感動した

て化学実験用のルツボなどを使つているがよい形だという。明かに今迄みた陶器は K.K. 氏の分もこちらも余り感心していないのである。その化学用陶器は機械製品かと聞いたらしい。そうではないという。「非常に正確な洗練された形で、しかも材質がよい。私達も初めは

という。腕を大きく広げて、この外陣の spaciousness (広々して感じ) がよいといつてあちこち歩き廻つておられた。後で思つたことだが紫宸殿に行つても同じことをもつと感じられたに違いない。

それから清水寺へ行つた。駐車場に車を止めて坂を登り石段を上る。グロピウス氏は奥さんをほつて置いてさつさつと独り先になつて行くので、奥さんを少し待つたらといつたら、「イゼ (奥さんの名) を待つていては世の間の進歩におくれる」といつてニヤリと笑つた。清水寺は予想しなかつた面白さを感じられたらしく、盛に写真を撮り遂にフィルムがなくなつて残念がられた。石段が上れない奥さんを下に待たせたまゝなので、見せられなくてかわいそうだと一寸愛妻ぶりを発揮されたが、下へ降りてからは手をふつて熱心に説明しておられた。土産物屋で梅の数珠を奥さんの首飾りに買つて次は三十三間堂へ行く。寺の前の広場で、まずどうして此所に茶店など許すのか、是非とり払つて広々とした視野を作るべきだなど話しながら、堂の中へはいつた。999 体の観音が並ぶ壮観には驚かれたらしい。何故同じものを沢山並べるのかという質問には、こちらに仏教知識は乏しく化身という概念の説明はうまくできない。観音は女体ですわねといわれるのだが、いやそうでないといつてから困つた。寺で英文の説明板を置いているが、それにもそう書いてある。これは誤りだといつたが、後が續かず閉口した。やつと鬚の生えた観音を見つけて男でも女でもないといつたが、判つた様な判らぬ様なやむやみである。こんな事で此の日は終りになつた。

その次は、これは日がはつきりしているが、6月29日金剛能楽堂へ能面を見に御供した。東京で観世能楽堂開きに能を見て、能面に興味をもたれたらしい。それで独立美術の須田国太郎先生を頼り、光琳社の中島社長の手を経て宗家に頼んで頂いて見に行つた。蔵田周忠先生も同行された。宗家では秘蔵の面や衣裳を舞台に並べ須田先生は能面作家の一覧表を作つて待つていて下さつた。襦袢から舞台へ進むと有名な翁の面や雪の小面から各時代各種の面が揃えて並べてあるのに驚いたが、まだ後からいくらでも出して下さつた。平素は齋戒沐浴してでなければ誰も手もふれられぬらしい翁なども自由に手にとつて見てよらしいといわれる。増女の面を照らしたり曇らしたりして表情の変るのを見たり、般若の面を急に動かしてその鋭さを味わつた。能衣裳の模様の現代的なこと、その色の良いことにも感心された様である。奥さんに般若の角は嫉妬が昂じると生えるのであると話したら、今でもそうかというので、今でも芸者と遊んで帰りが遅くなつたりすると生えるといつて、頭の上に人さし指を立てて見せたら、これから応用するといつておられた。その間にもグロピウス氏は奥に熱心に長時間ねばつておられた。事実私などもかねてから図集でしか見



貴船にて

てない面がずらりと並んでいるのだから些か興奮したのである。蔵田先生も感にたえた面もちで居られた。グロビッス氏の帰られた後で須田先生と別室で話をしたが、永年金剛家へ行つておられる先生でも今日程良い面を揃えて見られたことは今迄ないそうであつた。私まで御相伴で見られたのはグロビッス氏の人徳である。

その次にお伴をしたのは7月20日八瀬大原と貴船へ遊びに行つた時である。これはその前に京都の最後の日程をどうするかを相談した時に、毎日学者と学問の話ばかりで疲れたから、一度のんびりと京都の郊外で遊びたいということになつて、それならば行き先は八瀬大原と貴船とし、案内役は学者でない人というので私に当つた。元来私が学者ではないことは遺憾ながら自ら承知していたが、グロビッス氏迄が従来案内の際に何を聞かれても学術的には知らないと答えてきたので、白石は学者でないから難しいことはいわぬと安心されたいのである。

当日は曇日だつたが、朝から車をまず八瀬から大原へ走らせた。随所で車を止め民家を眺めたり、大原女をこつそり内緒で写真機を隠して追いかけたりしながら三千院へ着いた。中へはいろいろかと尋ねたら寺は嫌だという。これは寺と思つてはいけなないのであるといつて、特に頼んで庭の方へ直接入れて貰つた。青葉紅葉がいかにも美しく小鳥がなくて何ともいへぬ良い気持である。グロビッス氏も俄然良い気持であるという。往生極楽院の建物は成程これは良いと堂上によらぬ管のが是非上ろうということになつた。堂の建築年代を聞かれて百年以上間違えたが、学者でないからといつて皆で大笑した。

それから寂光院へ行く。雨が降り出したから車を降りるのを止めようかといつたが、見ようという。私には梅若万三郎氏がなくなれる少し前に大原御幸を演じられたのが思い出されてならない。グロビッス氏もこんな景色は京都でないと味えない。特に日本人は狭い場所に於ける設計が実に巧みなのに感心したといつて仲々去り難い面持ちであつた。

再び山端まで車を返して今度は貴船へ行く。沿道民の

家の表現が柔かなこと等話しながら貴船神社の奥の院まで車を登らせて、そこで車を降りた。亭々とした杉木立をグロビッス氏は何よりも喜ぶ。大きな木を見る毎に歓声を上げるのである。木の名前は相当日本語で覚えていられた。それからもつと奥へ山道を歩きだしたら、今度は奥さんがまず喜んでしまつた。足が悪い筈なのにどんどんと山道を登る。グロビッス氏は東京で自分で見立てて仕立させたという紺と紫の木綿の浴衣地のカッターシャツの軽装で幾分猫背で歩く。奥さんは黒の袖のない上衣に模様のあるスカートで黄色い毛のマフラーを肩にひつかけた姿である。道ばたの草をむしつたり、ふり返つて景色を見たり、その内に良い加減で戻ろうではないかと御主人がいう程の気に入り様だつた。今度は日本へハイキングだけを目的にして来たい。石段でなければ実は坂は歩けるのだということである。グロビッス氏は「日本は良い。アメリカではこんなに色々な木や草が一所に生えている所はない。杉の山は杉だけ、松の山は松ばかりだ。しかも景色の良いところには道がない。道のあるところは木がない。開発するといえ木を引き抜いてブルドーザーで山を削つて平らにしてしまう。アメリカ文化はブルドーザー文化である」という。日本でもこの頃の市や府県庁の役人が同じことをやつている。だから私は公園は嫌いだといつたら、大いに同感された。

この頃はもう夏を大分過ぎていた。昼食はホテルへ帰る筈だつたが、同行の国際文化会館の上田さんと相談して昼食を貴船でしないかと誘つたら、大賛成である。そこで貴船川に面した料亭に案内して、まず川へ降りて生州の魚を見せて貰う。アマゴの一年子や三年子にアユなどがピンピンはねていた。アユの酢漬、鯉の洗い、アマゴのからあげ、アマゴの塩焼などでビールをのんだ。グロビッス氏はアマゴのからあげがうまいと2人前食べる。塩焼の骨を尻尾の方へ抜こうとするから間違つているといつたら、誰かにそう習つたといいながら、然し白石のいう方が構造学的であるといつたり、奈良漬を実にうまいといつたり、なぜ日本では冷凍野菜をもつと普及させないかというので反論したり、日本人はあまり否ということはいわないが、否といいたい時はどうするかとか、英国人と米国人の話し方の相違やら、日本の遊覧バスガールの案内句調がおかしいことや、キスはしないとか、そのうち日本のお嬢さんがあまり美しいので驚いたが、男はどうもよくない、男と女は人種が違うのかと思つたとか、ともかく漫談の応酬をしている内にかなりの時間が経つてしまつたので、帰ることにした。今日は実にのんびりして楽しかつたし、昼食は安くてうまかつたと喜ばれたが、予定通り学問のことも建築のことも当日は殆ど話さなかつたのである。

その外には京都を去られる前日、御世話をした人々をグロビッス氏が招かれて京大の清風荘で昼食を御馳走さ

れた時に、末席をけがした。この時も学問のことは勿論話さなかつたし、大阪の講演会の後の宴に連なる時も同じである。だから私はグロピウス氏とは学問のことは終始直接には殆ど話をしなかつたのである。表題通りグロピウス氏と遊んだのに過ぎない。ただ外の人がグロピウス氏と学問の話をされるのを聞いて若干感じたことを付け加えておこう。

氏が一番力説されたことの1つはコミュニティのことであつた。大阪の講演会でもそうだつた。私は氏に資本主義制度のまゝでもそれが真に可能なかと少し詳しく聞きたかつた。実は一度聞きかけたら急に厳しい顔をして、それは返答するのに難しい問題であるという様なことをいわれたので、当節のことゆゑアメリカへ帰られなくなつたら困ると思つて止めた。

も1つよく云われたのはブリファブリケーションのことである。日本の住宅の量や質がそうだといわれるので、実は普通はそうでなくて一々跳えるのであるといつたら、不思議な顔をされたがその時外の人と話を転じられたのでそのまゝになつた。誰かが後でもこの点を詳しく説明したかと若干気がかりである。

京都のアメリカ文化センターの講演会の時には、バーナード・リーチ氏が質問に立つてグロピウス氏のも1つ

のテーマである工芸や建築の機械による生産の点を討論された。グロピウス氏は機械による芸術の将来を信じ、リーチ氏は疑問を示されたが論を尽くさず散会となり、後でリーチ氏は必ずしも納得できぬといつておられた。私としては別な折にグロピウス氏がなぜ日本の住宅建築などもつと機械化しないのかといわれた時に、半ばは同意しながらも日本の木材が機械にかゝらぬことや機械を買う程の資本が一般にないことや、労働賃金の安いことなど一寸話したが、これも充分理解されたかどうか。

グロピウス氏が普通の観光外人でなく、さすがに洞察力に優れた人であると思う一面に、やはり日本人ではない外人であり、その上短期の滞在でもありしかもいわば最早一種の教祖にもなつておられるのに、当方は度々申す通り学者の役割でなく、しかもベビー・イングリッシュときているから、判つたのやら判らなかつたのやら私自身にも判らない。勿論それは関西でも他の方々でその任は果されていようし、また東京では大いに盛に討論があつたに違いないから、その方々の話をやがて聞かせて貰いたいと思つている。私はグロピウス氏と遊んで、氏は誠に紳士であり、奥さんもさすがに立派なものだと感心したのである。(筆者 京都工芸繊維大学教授)

紫煙室

倉敷のグロピウス教授

「私は倉敷について強い印象を受けた。特に表現の著るしき統一を持つたこの町を見出した今日は稀らしい日であつた。美術館の上に立つて見た屋根の形態の如くこの町の偉大なる実在は如何なる新らしい建築及び間在する何物によつても防害されることなくあるものには独自の特性を持つた前時代の一つの町の感情さへ感じられるのである。

私は同じ勾配からなるその屋根の存在のシンプリシティーを好む。こゝで私はこの町は文化的遺産の認識が溢れそのやり方を持続して行く真の意欲を持つて居ることを感じた。私は民芸館を見た。この工業的興隆時代に於ても実に高い質を持つものと思はれる。それは過去の手仕事の時代に於ける良き実例より新時代の工業的方法に対する解決を見出さうとするものに取つて布地のシンプリシティーを学び得る点で非常に重要であつた。

この地に於て又美術館を觀賞し得た。特に印象派絵画の立場から見てフランスの画家が代表して居るがこのコレクションは歐洲の其れに比べその高い価値に於て何等の遜色のないものと思う。私は倉敷に於て非常に思ひ出ある時間を過したが殊に大原氏の厚遇に対し感謝致したい」(ラヂオ山陽放送1954年7月8日録音)

天領の昔(十七世紀)の姿を家並に残すこの一地方都市の二泊三日の旅はグロピウス教授夫妻に取つては押しつけの現代建築から解放された稀らしい日であつたであろう。この町は嘗て小堀遠州が第二代の代官として発展の基礎を与へた歴史を持つて居る。統一ある表現を破る唯一の建築——「美術館」の屋上からの感想であつてその反対のものではない。

老教授夫妻には同行者として棚橋諒氏、丹下健三氏(夫妻)も加はつた。私が倉敷市民としての立場から常に考へなければならぬ一つの問題に対してもこの録音放送は好いサゼストであつたが、尙両氏の補足的解釈を加へよう。「新らしいものと古いものとは調和し得る筈である。日本に於てそれが何であるか私(グロピウス)は今ポケットにその解決案をもつては居らない。それは皆さんがやらなければならないことだ。唯鉄筋コンクリートの新建築に大きい瓦屋根をのせることで問題は解決されはしない。新らしいものと古いものは調和するが好い可減な妥協からそれは生れない」。歐洲の偉大なる文化的遺産の地盤を除外してはグロピウスの苦しみも喜びも又業績も見事なる事は出来ないのではあるまいか。

(浦 辺)



倉敷市羽島南でバーナード・リーチの作品を見るグロピウス夫妻、背後和服の人は外村民芸館長、通訳の野生司氏夫妻

中国地方でのグロピウス

佐藤重夫

全くそつのない、むしろあつけない粗末な歓迎ぶりです。広島駅頭にグロピウス博士を迎えた我々は、これでは失礼でなかったかと心配もしたが、真面目な彼はこれをよしとして下さったので、先づ我々は安心した。博士が来広される前々から我々は協議を重ねてみたが、事々しいことを一切好まれない博士であるので、全ての予定も到着してから決めることにしていた。然し先づ市内を一望するに恰好な比治山へは御案内することになっていた。

比治山の頂には、米国原爆研究所と前川氏作の同宿舎とがあるので有名で、此処から見た市内は少し遠い嫌いはあつても、市内の現実が下で見るとよりよいかえつてよく解る所である。博士の到着された7月8日の午後は天候もあまり良くなく、雲は低く動いてどんよりしており、遠望はきかなかつた。けれども学会支部長葛西教授と広島県建築部長諫早氏との説明を熱心に聴いていた彼は、四周の山や海にも非常に興味をそゝられた趣である。

殊に野生司夫人の縁りの地である仁保方面を眺めていたグロピウス夫人は、何を思つたか彼の腕を行きなりとらえて振返えらし、その海のあたりをしきりと説明し出したのである。此の風景に我々側の者は一寸驚ろき、一面どういう感興が彼等の意中に沸いたのかと思つたのである。果して、やがて彼は「世界の三大美港のリオデジャネイロよりもここの方がずっと美しいではないか。広島は原爆のことばかり云はないで、どうして此の美景を生かさないのであつて置くのだ、港はどうなのだ、深いのか、浅いのか、河川はどうなのか」等と次々に彼と彼女の口から質問と耽賞と皮肉との言葉が矢つぎ速やかに飛び出して来た。折柄雲低くたれた天候は日暮の近づくにつれ、瀬戸内海の島山に程よい青灰色の調子を付け、銀色に輝く海面に遠く近く浮んだ大島小島には自然に濃淡が出来て、美しい景観に興行を作り上げて行つていた。

原爆当時と今との違いとか、道路のこと等が彼に無関

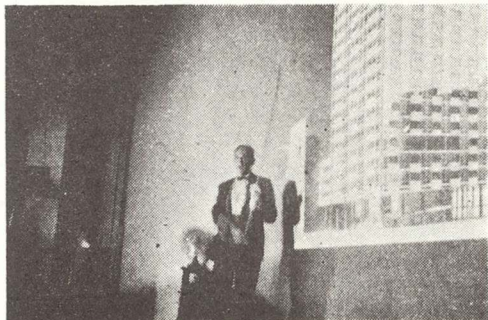
心のことであつたという訳は勿論全くないけれども、立ち去りかねた彼とこの瀬戸内海の美景とはやはり深い処で触れあう何物かがあつたのだらうと私は思つている。彼の胸に去来したもの、それは云いかえれば、一つの広島、瀬戸内海、そうして日本であつたかも知れない。我々も亦感無きあたわずと云うことであつた。

比治山を下りてからは平和記念中央公園の中心施設である丹下助教授の数々の建築施設を廻り、折柄の強雨の中を村野氏のカトリック記念聖堂に行き、夕刻彼等は宮島の宿舎に入つたが、熱心な見学振りには不足勝の時間であつたのは残念である。

明くれば7月9日の講演日で、此の日は大層蒸し暑い未だ梅雨の水気がぬぐい去られていない感じの晴天であつた上に、会場の農協ビル講堂に溢れた聴衆は700人にも達して、非常に暑い。それでも定刻前に会場に到着した博士は、学会支部長の紹介講演の終るまで、控室で想を静めていた。我々は多数の来聴者に喜びつつも、暑さと、この混雑が彼を煩はしはしないかと気がかりにもなつていた。

けれども拍手に迎えられた壇上の博士はさすがに堂々たるものであつた。彼は口少なの、落付いた、いかにも独逸生れの渋さのある姿と物腰の人で、71才というのに血色も健康で、背高の彼の上品な口元と、引締めた理知的な眼差しとは、中央に立つて日本風に礼をされた時既に満堂の者にびたりと接した親しさが感ぜられるに充分であつた。彼には堅さもなければ、無論柔弱さはみじんもない。卒直な、それでいて間がちやんととれて、つまづくものもない安心感、そう云つた自信と力とが、私の今日の講演課題は云々と云う言葉でやがて始まつて行つた。さすがに一言も聴き漏らすまいとする聴衆の希望は野生司氏の翻訳の名調子と交互の彼の英語講演に、一節一節触れあつて行くかに思はれる。最初から正面中央で

広島講演中のグロピウス氏

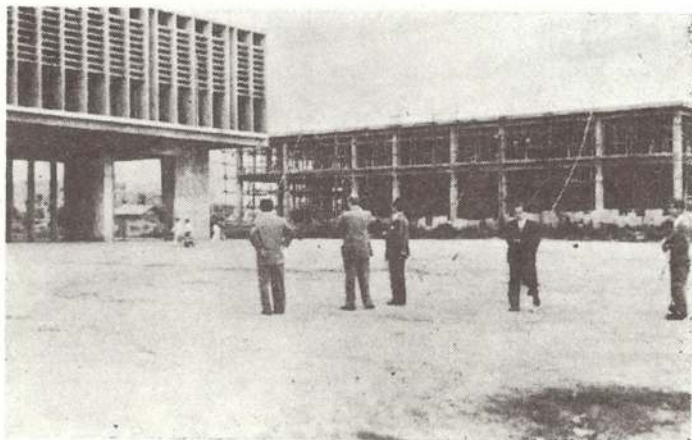


左 同





広島原爆慰霊碑前のグ氏



平和記念公園陳列館前のグロビウス氏

左より、丹下氏、グ氏、野生司氏、謙早建築部長、葛西教授

熱心に聴いておられた森戸広島大学長も、あれだけの充実した講演は数多く来訪する外人の中でも、なかなかどうして、そうあるものではなく、実に立派で敬意を表したと後日述べられていたが、全くその通りであつたと思う。スライドも東京、大阪にも増して追加され、最後のボストンコミュニティセンターの何枚かが写される頃はたつぷりと2時間の長さが何時の間にか過ぎ去つていた。淡々として崩れず、懇切を極めた論説は、やがて道義なきデザインの美しくあろうはずのない点も特に広島のために忠告し、total architecture と我々がいう真の建築は美しい環境を創るための魁となるものでなければならぬと云う、彼の結論がありがとうと云う言葉でむすばれた時には拍手はしばし鳴り止まなかつた。上気した彼の面上には微笑と喜びと安堵の色が明るく浮び日本流の礼を何回か繰返しながらの彼を見送つた会場の者は、今の講演を想ひ廻らすゆとりもないほどの感銘と感激そのものになつていた。きつとこの感激には何らかの形となつて我々の内に生きる深い根が生えて行くにそういないと私は信じている。

総じてこんな、広く、深く、かつ取留めにくい、哲学的、心理的、工学的、そうじて芸術上の基本的な論説程やつかないものはない。而もその内で最も大切な「建築家とその環境」というこの日の講演程整いのよく出来ていて、解り易い論説には確かに今迄我々は接することが出来なかつた。これは決して言葉の上での抽象ではなく彼が彼の最も目覚ましく発展し、世に魁けて現代の建築のリーダーの一人となつた、バウハウスの1910年代から、彼が歩み続け、悩み、そうして世界に働きかけ続けて来た実際の建築活動そのものが今日の講演であるとも云える。だからこの講演は聴く者をしてその心底に触れるものを引き起さずにはおこなかつた。彼に対してはほんとによくも説いてくれたと感謝がこめられて当然であり、それが今、我々が彼に贈ることの出来る只一の言葉である

と思つている。

その翌日は厳島に散策をして休養をとり、舞臺も見て楽しんでいただいたが、夕刻に森戸広島大学長他、地元建築家有志と打解けた茶話会が開かれた。事建築に關はることに就いては熱心そのものの彼は、談論風発する座話の内にも幾つかの考えをただよはせてくれた。例えば形と材料というような事でもはつきりとそれを示していた。それは厳島神社大鳥居の問題であるが「現在の如き状態では何れ今の木造も腐朽すると思うので、その時にはこれをコンクリートで造らねばならぬか否か」と云うことについて、彼は「それは例え大木は得られなくても、寄せ合せて木で作ればよい」と明答した。味あうべき言葉であらう。

又彼は広島へ来るに際し、丹下氏の作品を見るのが一つの楽しみであると、駅頭で述べていたが、荒天の中にもよく平和記念陳列館と慰霊碑を見て、喜怒を表にあまり出さない無愛想な彼ではあつても、相当に興味をそそられたようであつたし、カトリック聖堂もその作そのものは彼の興味をひいたようである。然し設計競技の一等が実現されなかつたという事については目下工事中の公会堂が同様な運命にされているのと共に与論の喚起を呼号し、道々まるで青年のような純情を披瀝するのであつた。世界の常識から見て彼は大層訝つていたようである。

たつた中二日間の滞泊であつた彼は長途旅行に大事をとつて、岩国の錦帯橋は割愛した。けれども広島名物の水上の家である牡蠣船で一日日本食に寛ろぐことが出来て、少しの慰みにはなつたかも知れない。今は牡蠣の期外外であるので、鮎や鰻ということになつたのだが、器用な手つきで箸を運ぶ夫妻御二人は鮎の骨抜きも出来て広島銘酒の上欄に舌鼓を打つのであつた。然し魚の腸や皮にはさすがに閉口の態で、これは勿論の事である。席上日本の石積が何故に斜であるか、とか、日本の書体に三態あること等の話が賑はつて尽きるところを知らない



広島比治山山頂でのグロピウス氏



同じくグロピウス夫人

彼は作品とか個性とかよりも、建築に客観性、普遍性、科学性を重く且つ大きく認めているのではあつても、彼自身はしかし充分に芸術的天分と力量とを持ち、深くするどい感覚にひきしめられている人なのである。従つて彼の行くところ、又起居全般にある深さの認められるのは垣間見しても床しい限りのものであつた。

広島に到着するより先に彼は倉敷で大原倉絹社長の個人的賓客として迎えられたが、ここでは彼は多くのものを見且つ味はつた。特に大原美術館の屋上より見た日本瓦の家並の見事さには心打たれたようで、広島でも度々私にそう漏らしていた。其処には何一つの強制的な法規もないのに、瓦という材料と長年育て上げられた日本家屋の構造とから出て来た瓦屋根が美事に統一を見せていると云うわけである。然し個々のものは全部違つておりお互に競いあつて、色々の向にも、高くも低くも、大きくも小さくもなりつつ出来上つている。これこそほんとの調和、統一なのだということで、これでよいのだというところに彼の喜び、手を打つたところがあるのではなからうかと私は思つている。又彼は民芸館の器物にも大層興味を持ち、掃木や簀笠、籠の構造をはじめ、特に織物には深く関心を示したらしい。グロピウス夫人はバウハウスで織物を専攻したのでもあり、洋の東西を問はず物の作りよう、デザインの上に通ずるはつきりした脈搏を呼び覚ましたのだとも云えよう。時あたかも同館では

海外民芸陶器の一部をも陳列しており、グロピウス夫人はその中からシュワルツワルド等の陶器をさすがになつかしく、行きなり云いだした程であつた。バウハウスより貫き徹して来た夫妻なればこそ、物の基盤である、物を見る眼、云いかえれば物の考え方に、動かうともしない強い立派さが、しつかりと安心して包まれているとでも云えるのではなからうか。

以上とりとめもなく綴つたが、これがかえつてグロピウス博士夫妻を傷けはしないかと恐れている。若しそのような点があつたらそれは筆者の過誤であることを御ことわりして、中国地方でのグロピウス博士の動静の一端を御紹介したまでである。

最後にグロピウス博士に厚く御礼を申し上げ御健勝と一層の御発展を祈つて止まない。亦野生司氏、丹下氏、其他国際文化会館と日本建築学会の多くの方々に厚く広島から御礼を申し上げます。

29. 8. 22

(筆者 広島大学工学部助教授)

次号予告

11月号は「建築家の住宅」として、著名な建築家の住宅を紹介します。作品作風欄も新建築3点ばかりけいさいする予定です。

建築写真

ユニヴァース写真工芸社

森 庄 次 郎

大阪市南区笠屋町4番地
(低周防町三休橋筋角)
電話 南 ⑤ 0240 番

着色オイル拭きの時代は過ぎました!

床の仕上に 艶出ケントク

日本建築協会・関西建材会・会員

株式会社 ケントク 大阪市北区豊崎・産経ビル前
電話 福島 ④ 1546, 3507 番



ドイツ時代のグロピウス

蔵 田 周 忠

1 ウェルクブント時代

ベルリンからベルリンへ グロピウスが建築家として作品を作ったのは、ドイツとイギリスとアメリカとである。50の誕生日を過ぎてから、ナチスに圧迫されてドイツを去るまでを、ドイツ時代としてここでは語ってみようと思う。

ベルリンで生れて成人し、シャロットテンブルクの大学を出て後、ミュンヘンの大学にも勉強に行つてきて、その当時の大家ペーター・ペーレンスのもとで修業を経て、建築家として社会に立つたのもベルリンであつた。

1918年、前大戦後ワイマールの時代、ついでデッサウ・パウハウスの時代を経て、1928年にはまたベルリンで建築事務所を開設し、熱心にジードルンクの問題と小住居の問題からひきつづいての CIAM 運動に尽力したのであつた。グロピウスのドイツの遍歴は正にベルリンからベルリンへであつた。

ファグス工場 グロピウスの最初の仕事はライネ河畔の小市アルフェルトに建てられたファグス“FAGUS-WERK”靴型製造工場であつた。明快な事物性と鉄とガラスをカーテンとする必然的な美が、コンクリートの骨組のカンティレバーシステムを生かして、その当時(1911年)としての先駆性につくづくと見入らせる。

このカンティレバーの構造上のアイデアを活用したのは、早くアメリカのライトであつたが、更に鉄筋コンクリート構造に、軽快な鉄骨構造を併用してスラブのカンティレバーを派手に生かしたのは、フランスのル・コルビュジェであつたというべきであろう。しかしル・コルビュジェの最初の基本システム DOM-INO が発表されたのが1914年となつているから、グロピウスが第二の代表作たるケルンの DWB (ドイツ工作連盟) 博覧会にガス会社事務所と工場を設計した年である。

ケルンDWB博 この作品の点でグロピウスの方がル・コルビュジェより「先輩と言えるであろう」というリチャーズも指摘したのであろう。その後いつも2人は、

特に CIAM で提携して、相影響している。そしてそのうちにル・コルビュジェは「全く第1次大戦後の大立物」となつたのである。

一方グロピウスはペーレンスという開拓者の伝統を直接にうけついで、工業建築の分野に新しい時代を生かす道に精進していた。その代表作が前記のドイツガス・モートル会社の工場と事務所である。このケルンの DWB 博覧会はペーレンスの指導があつたことももちろんであるが、直接にはその指導の元で有力な門人グロピウスの尽力は目に見えない底力であつたに違いない。

ウェルクブントDWB 1907年ヘルマン・ムーテジウス等の熱心で組織されたドイツ工作連盟 (DWB—ドイチェウェルクブント) はイギリスのモリス等の Arts and Crafts Movement の影響を直接反映したものであつて、今世紀最高度のドイツ工芸・建築に於ける功績は極めて大きく、また極めて有力な実行力のある組織であつた。その上1910年頃にはドイツの工作力—工業力は強大を誇るようになり、工業建築の新しい発展の道が開拓さるべき気運であり、またその建築としての独自の美が認識されてきたという時代であつた。

ペーレンスの設計したベルリンの AEG の工場がその転換期をマークすることは余りに有名である。その下に学んだグロピウス自身、ペーレンスとウェルクブントの指導者達との話の間に「私は自己の建築に対する見解を形成し始めた」と言つて、ウェルクブントに力を入れ、その影響を受けた時代を回想している。

2 パウハウス時代

ワイマール 中部ドイツの由緒ある都である。ゲーテやシラーの家のあることで誰も知っているドイツ文化の一中心地である。第一次大戦後ここにチューリンゲン社会民主主義政府が成立し、ワイマール憲法が公布された。その1919年の春チューリンゲン政府は、グロピウスに依頼して新しい時代の造形教育の場を設立することにした。この地の元の領有者たる大公の建てた美術学校と

図1 ファグス靴型工場 (1911)

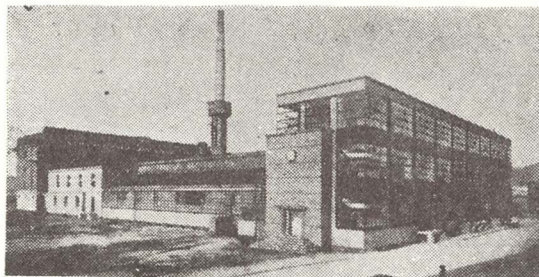
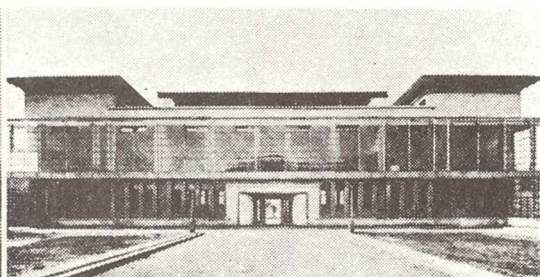


図2 ケルン・ウェルクブント博の事務所と工場 (1914)



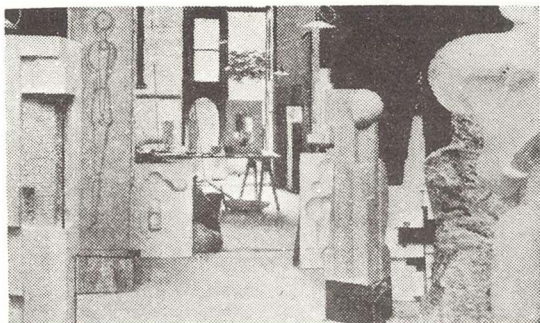


図3 バウハウスの作品 (1924)

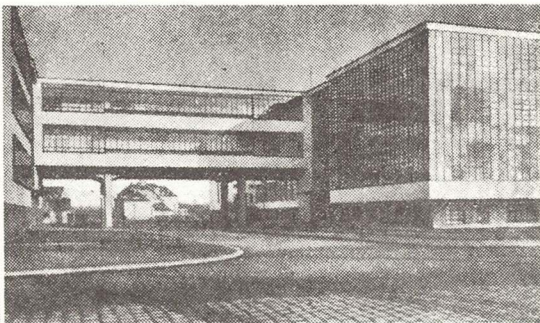


図4 デッサウのパウハウス (1926)

高等工芸学校とを合併して、グロピウスは「国立パウハウス」staatliches bauhaus, Weimar とした。ここに美術学校の理論的教育計画と、工芸学校の実際教育計画を総合した新しい教育原理が設定されたのである。第一次大戦の敗戦直後に於ける立ち上りとして、驚くべく創造的な行動であつた。その影響力の大きかつた効果を、今日から追想してみても、実にみごとな信念に立ち、立派な組織力を示すグロピウスの力がひしひしと感じられてくる。

パウハウス・ワイマール これは正にグロピウスの名声を世界的にした機会であつた。ドイツ自体が国内の改造を行いつつある時に当つて、遠大な思想と、実社会の要求に従つて計画を立てる能力のある指導力を示したのである。近代の工芸・建築にとつて不朽の業績であり、当時としては充分革命的な成果であつた。

このワイマールのパウハウスの実際は、教室の教育と併行して、工房でも実習教育が行はれ、手工業による実験はいつも機械生産を予想して行はれ、それに創造性を奥へ、仕事としての理論のうらづけを修練するのであつた。

グロピウス自身の言葉でいうと「——近代的な建築（統一体としての建築芸術）を実現すること。それは人間性そのものと同じように、建築の領域の中に、他のすべてを包括すること。——あまざまな意見や傾向をもつた美術——即ちデザインのあらゆる分派、技術のあらゆる形態が、互に同等のものとして、各々指定された地位をこの連邦国家の中に見出すことである。それゆえわれわれの究極の目標は、完全な、分解できぬ芸術作品即ち統一ある建築であり、そこではこれまでの記念的要素と装飾的要素とを分けてきた古い境界線は永久に消え失せてしまうであろう」といつている。

デッサウ ワイマールパウハウス創立以来、工芸の部門（木工・木石彫・金属・陶器・壁画・硝子画・織物・印刷）各部で、大量生産の基準となる高級なデザインが研究された。その成果はめざましかつた。文様の末でなくて、基本の形態・必然の形——まづ形の根本に向う單純化から出発した。生活用品——工芸の形のそのものからの分析と創作の道が開拓された。それには形態を指導

するマイスターと工作技術を指導するマイスターとが上記の各科にあり、研究は直ちに工房で製作に移されて実験され、更にその原型は工場的大量生産にゆづられる組織になつていた。そのマイスターの教授連に、当代の急進的な芸術家、例えばカンデンスキー、クレエ、シュレンマーなどを集め得たことも、グロピウスの人となりと組織力によることであつた。

1924年にはワイマールの5年間の製作が展覧され図録もできて世界の目をそばだてた。しかし政治上のいきさつで、まもなく閉鎖せざるを得ぬことになつた。

1925 しかしひきつづいてザクセン・アンハルトの工業都市デッサウが引受けて1926年以後はパウハウス・デッサウとなつた。

それから1932年ナチスに閉鎖を命じられるまでのパウハウスは現代工芸とその統体たる建築の製作に於ける精進を研さんする処として、若く世代の人々の憧憬の地であり近代芸術のメッカとも言はれるようになった。

パウハウス・デッサウ グロピウスは1926年デッサウでの開校から28年まで3年間校長として尽力したのであつたが、その間の生気に満ちたパウハウスの動きと成果とはめざましいものがあつた。集まる学生は世界の各地からであつたから、従つて学んで後のパウハウスの影響は、従つて世界的に分散した。

教授の中でもプロイヤーやモホリ・ナギイのような豊かな才能の持主が積極的な動きを示しプロイヤーの鋼管椅子などは工場生産に移されて、今日では普通のことになつたが、考えてみるとたいした発見であつたわけである。写真やディスプレイに於けるナギイの名声もその驚くべき豊富な才能による。

アルベルス（アルパース） デッサウでは少しく組織が変更され、ここでは予備教育をアルベルスとモホリ・ナギイが受持つていた。アルベルスも極めて才能に富むマイスターで、その「物質的形態教育」はパウハウスの全科に共通する独創的な基礎教育として注目すべきものであつた。——独創的な構成力を訓練するためには、このような人材と方法とを得ることであり、その実験による体得こそ貴重な成果となるのである。

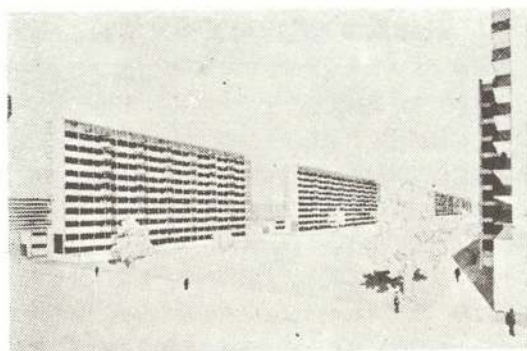


図5 11階建高層住居家 (1930)

「アルベルスは造形の指導者としてよき才能の持主だ」とグロピウスも話されたことがある。

『——美的よりはむしろ技術的、経済的考慮を重視する方法は、材料の全性能を理解させるものであり、「材料に内在する性質がその用い方を決定する」ということ、いいかえれば形態の基本法則を理解させるものであった』とデッサウで直接教育を受けに建築家山脇巖氏も書いている。(同氏:「バウハウスの人々」参照)。

統一ある生活空間 基礎から変革してその上に、芸術の各分野の専門家が協力した統一ある生活空間を打ち建てることに成功したのである。それは美学でいうみごとに多様の統一である。それこそはモリス以来の近代的工作運動の精神の具象である。デッサウではバウハウスの校舎と工房のほかに、教授連の住宅も建てられた。近郊には労務者のためのジードルンクがこれもやはりグロピウスの設計で三年計画の量産が実現された。

ベルリン時代 そのうちに1928年バウハウスの校長をハルネス・マイヤーにゆづつて、グロピウスはベルリンに出て再び建築事務所を開設し、設計に従事すると共に当時の社会の中心問題たる住宅問題の解案に専念した。グロピウスは「国立住宅建築経済調査所」の副会長になった。その頃ドイツ全体に住居の建設と研究とは国家の事業として行はれ、調査所は最高指導機構の一つであったのである。

グロピウスが住宅問題に没頭しはじめたのは早くからであつたが、前記のようにデッサウ・トエーテンの労務者ジードルンクで連続生産の工業化的方法を実験している。同じ頃1927年にはウエルクブンド (DWB) がスツットガルトに新しい時代のための住宅展示をした。その時にグロピウスは量産住宅の一方式を提案したのは、今も注目されている。

トロッケン・モンタージ・パウ 日本では乾構造・乾構築と訳してわれわれもそのアイデアを讃仰したものであつた。水を使わない、即ち現場の塗壁を使はない、工場生産品の組立住宅の意味である。1927年の実物展示住宅展にはル・コルビュジェの近代建築史に不朽の作、

DOM-INO システムの二戸建住宅も展示されたので、誰もが注目したのであるが、グロピウスの18号住宅が、鉄骨に外壁石綿スレート、内壁テックス、壁中空部の遮断材ソロミットという徹底したトロッケンパウであつた。

スツットガルトワイセンホーフに於けるこの DWB 住宅展示は、全体として当時のドイツばかりでなく、世界の新進建築家の共鳴を呼んだものであり、バウハウスの時代にグロピウスの提唱していた「インターナショナル建築」の理念への共鳴であり、ここにもやはり、グロピウスのいつも提唱する建築家同志及び各芸術家の協働 (コムボレーション) がみごとに結実したのである。

そして住宅の工業生産への認識と研究も発展した。グロピウス自身その理論をもちつづけていることは、後日アメリカに移つてから仕事の上にも見ることができる。

ジードルンク ベルリンで事務所を開いてからのグロピウスの仕事の中で目立つのは、1930年頃の集合住宅—ジードルンクの計画である。

丁度マイン河のフランクフルトで「生活最小限住居」のテーマが取上げられたのも CIAM の一連のつづきであるが、同じ頃グロピウスの指導でまたグロピウスの当選案を加えてカールスルーエ市のダムマェシトックに全く新しい配置のジードルンクが建設された。(その会議にはわが山田守氏が出席しこのジードルンクの報告が「国際建築」1932年頃に出ている。私も山田氏の案内でこの住区を見学した)。

同じ頃ベルリンばかりでなく経済的に苦しいドイツ全体であつたが特にベルリンは、ジードルンクの建設がしきりであつた。国または市または組合等公共の資力による大規模な建設であつた。ブルノー・タウトも大きなジードルンクを設計していた。

グロピウスが他の4人の建築家と協力して、ジーマンヌスシタット住宅区を分担設計したのも1930年であつた。

低層か高層か この議論が集合住居に対してしきりに行はれたのもやはりこの同じ頃である。グロピウスはル・コルビュジェと共に高層を主張し、グロピウスは10階乃至11階建の立案をして、ベルリンの建築博覧会にも展示した。いづれもそれら住区すべてにわたつての強い主張は住居ブロックの配置計画の上に現はれている。即ちそれは最も単純明快な併行配である。——これらのことはまた別に、グロピウスの住区計画として紹介し分析してみる機を得たいと思う。

参考書 以上バウハウスだけに限らないでグロピウスがドイツにいた時代のうち、最も重要な仕事と作品とをスケッチしたのである。

なお拙著「グロピウス」(近代建築家シリーズ4)

リチャーズ「近代建築とは何か」(桐敷氏訳)

国際建築「グロピウス」等参照していただきたい。

(筆者 武蔵工大教授)



南面

倉紡新社屋見学記

渡辺(節)建築事務所は先に紡績検査協会新築(大阪)の設計監督を行ひ戦前の端嚴な古典的手法に新風を入れた佳作を発表した。今般の倉紡新社屋も又同事務所の手になるものである。行き方としては前記作品と共通した非常に手堅いディテールの中に流石に古典で鍛え上げた手並が見えて来て戦前派には興趣深いものがあつた。特に曲り階段廻りの扱い方には戦後派の及び得ない洗練さがある。ただ全体として見ればそれが却つて表現の統一をさまたげるのではあるまいか、このビルは建築費と設備費とが殆んど同額に及んで居る、設備が完備して居るとも言へるし逆に建築費が安すぎるとも言へるであろう。玄関入口の自動開閉扉はこの種のビルには目新しい行き方であるが紡績工場では以前から使用されて居る由である。ルーバーを持つ南面ファサードは自動扉を持つ入口廻りと同質の清新さを持つて居る。然るに南面の植込(貝塚伊吹)とは凡そ調和して居らない。この植込は旧館の其の延長であるだろうが設計者の意図に反して施主側の行つたものだと聞いて居る。このような表現の不統一が室内にも見られた。重役室の家具内装工事はそれとしては統一されたものであるが、ビルの建築的性格とは矛盾した存在であろう。殊に戦後派の見学者には混乱した印象を残すのではあるまいか、私共はほのかに香る古典の洗練性が新建築と共に調和ある存在となることを期待したい、かのベレーに於て実在する如くに。



ホール廻り

麒麟麦酒KK尼崎工場見学記

8月25日2時30余度の干天にも不拘定刻迄に会する者約80名、同工場最近建築の接待所に集合、芳野工場副長のビール並同社の沿革とビール製造行程概要並に大阪建築事務所小西技師より最近増築された1号倉庫と接待所の建物について設計並に第1号倉庫浮函基礎応用の経過等説明あつた。それより係の案内にて製造工場一巡各所でコンセツな説明と質問に答えられた。暑熱に悩まされていたが、冷貯蔵庫や酵母室に入るや急に冷気身に沁み一時夏を忘れたが再び外部の灼熱を浴びて休憩所に集合記念撮影後同社製品のビールとレモンの試飲接待を受け歓談先は納涼気分をチョッピリ味い微クンを帯びて赤陽傾く5時頃電車の人となつた。

愛飲家の参考迄に当日聞き得たビールの沿革を略記すると、ビールは400年前エジプトに出来ていたらしい、それから独乙を中心にヨーロッパに普及したが100年前より大工場設備が出来1871年パツスール(フランス化学者)がビール、ぶどう酒の醸造方法につき酵母醗酵原因換気等立証発見して盛となつた。1873年インゼが従来氷を入れて限られた期間製造していたのをいつでも醸造する様になつた。1882年デンマーク人ハンゼンはコーボ培養と品質不変の製造方を発見一大革命を起した。日本では100年前1848年幕末ペリカが艦上で使用したが、始めて之を知り新橋五丁目に製造所が出来た。明治5年アメリカボブブランドが横浜に工場設立18年に日本人の資本が投資参加した。明治40年日本人でキリンビールの会社が出来今日に至つたとある。後幾多の変遷を経大正6年尼崎工場が出来当初年10万石だつたが昭和18年18万石醸造したが昭和28年度は24万石を製し29年度末約30万石を目指している由。尚尼崎工場はビールの外レモンも製造されているが目下の所大した数量になつてない、現在本邦内にはビール製造工場は130余を数へられる由、尚同工場より尼崎市に支払はれる税金は年五億円とかで尼崎市としては同工場は重要資源であると聞く。但一本125円の内税金は70円20銭で皆お客様の負担と聞かされては70円の自らの税金を泡の如く呑んでウイットとも云へぬ、ホップ以上のにがみを感じる。 29.8.30 大和記

当日の記念写真、御希望の方は40円送金下さい。



○建築基準法の一部改正について 日本建築協会法規委員会編

法第六条第一項第四号の改正について

従来、都市計画区域内の建築物は、すべて、原則として建築主事の確認を要したが、都市計画区域内でも市街化の予想されない区域について、建築士等の自主的な遵法に期待することによつて法の目的が達成できるものと認められるので、事務簡素化の趣旨から重点的に建築基準法の事務を行うため、このような区域について都道府県知事が指定した場合には、同号の規定の適用がないこととされた。

法第十五条第一項の改正について

着工届及び除却届は、従来は、建築主に義務づけられ

ていたが、事務簡素化の趣旨に基き、建築手続に不馴れな建築主よりも建築を専門とする施工者に義務づけられた。

法第三十一条第二項及び第九十三条第四項の改正について

従来、旧汚物掃除法関係法令によつて、地方長官がし尿浄化そうの構造、維持管理の規制を行い得ることとなつていたが、今回、これの構造については、建築基準法関係規定のみによることになり、これの維持管理の基準については厚生省令によることとなつた。

○無窓工場に対する建築基準法上の取扱について

紡績、人造繊維、織布、写真フィルム及び精密機器製造のための無窓工場については、下記要領によるものは衛生上、防火上、避難上支障がない限り事前に本省と連絡協議を要せず特定行政庁限りで確認出来ることになった。

尚上の用途以外の工場の場合又は上の用途の工場でも下記要領によらないものは従前どおり本省と連絡の上措置される。

一、構造

主要構造は、耐火構造とし、又は不燃材料で造り、間仕切壁、仕上材料等も極力不燃材料を使用すること。

二、換気

1、給排気とも、機械換気によること。

2、機械換気の換気能力は、給排気とも、一人一時間当り35立方メートル以上、且つ、床面積1平方メートル当り一時間につき15立方メートル以上とすること。有害ガス、粉塵等を発生する工場においては、排気能力を給気能力より大とし、有害ガス発生箇所附近に排気口を設ける等局部換気方式の採用等も考慮するものとし、有害ガスの量が常時恕限量以下となるようにすること。

三、保安電力

1、非常の際確保すべき電力は必ず二系統以上の電源によるものとし、うち少くも一系統は自家発電によること。また、これらは、いずれか一つが停電した場合は自動切替装置により他が作動し、無窓工場への送電を最優先するように配線するとともに、無窓工場への配線は断線するおそれのない地下ケーブル等によること。

2、1の電力は、少くとも作業員が容易に避難できるような照明を行うことができるものとし、また、有害ガス等の発生するおそれのある作業を行う場合においては、避難時にこれらを排除する装置が停止しない程度のものとすること。

3、出入口の全部及び出入口までの通路の主要箇所には、1の電力と別系統の電源（蓄電池等）による非常灯を設置し、常時点灯しておくか、又は非常の際、自動的に点灯されるようにしておくものとする。

四、避難

1、作業人員、配置等を十分考慮し、屋外に通ずる出入口を二ヶ所以上設けること。

2、出入口までの歩行距離は、作業人員、機械の位置、作業系統等を十分考慮した上、なるべく30米以内となるようにすること。

3、出入口は、非常の際外部より救助隊が入れるように留意した構造とすること。

五、消火設備

工場の内外の消火上主要箇所には、必ず、消火せん等の消火設備を設け、燃え易い物品を多量に処理する工場においては、そのほかにスプリンクラー等の自動注水設備を設けるものとする。

六、参考事項

前各項のほか、出来得れば次の点についても考慮することが望ましい。

1、燃え易い物品を多量に処理する工場においては屋根の角隅部等の適当な位置に排煙口を設ける等火災発生の際の排煙措置をすること。

2、昼夜の別、天候等を判別できる程度の小開口部を適当な箇所に向けて従業員の閉塞感を緩和する等心理的影響について考慮すること。

3、機械騒音が100フォン以上になるおそれのある工場においては室の形態、仕上材料を十分考慮し、騒音の緩和をはかること。

4、作業面の照度は、100ルクス以上を基準とすること。

第1回コンクリート技能講座経過報告

日本建築協会は8月号会告にかかげたように、今夏9日間にわたりコンクリート技能講座を開講した。その目的とするところはおもに現場の第一線に働く若い技術者の意欲に答え、ひいては施工界の向上の一端に資しようとするにあつた。教育委員会(委員長鷺尾健三博士)において数次にわたる熱心な討議をへて企画し実行に移された。会告と同時に申込者あいつぎついに予定人員100名を超過し、やむなく135名まで増員したがなお多数の方々をお断りしなければならぬ有様であつた。企画者側としてことに喜びにたえなかつたことは、熱心懇切なる講師の講義、事務当局の周到なる準備はさることながら聴講者諸氏の炎暑にめげぬ熱意であり聴講者131名中皆出席者実に115名実に90%のまれにみる高率に及んだことであつた。

本講座は今までになかつたいくつかの新しい試みとをもつものであつた。第1には現場第一線の人々を教育する意図をもつて毎年開講されるいわば「学校」的なものとして企画した事である。第2には「平易でかつ最新の工学を」狙つて講師に特別な御無理を願つたこと。第3には200頁に及ぶ充実したテキスト、しかも将来座右の書として役立つ「コンクリート施工指針」を用意したこと。第4にはまだ不十分とはいひながらもかく実習を課し、また貸切バスにより代表的現場の見学を行つたこと。第5には在来の聞き流しの講習を廃し、実質的な効果をあげるために「試験」を課したこと。第6には修講者のしるしとして「バッジ」を制定したこと等である。このバッジは毎年の修講者の胸にかざり、官許の建築士のごとき資格でこそなければ、「コンクリート技能士」とでもいふような一つの實力の表識として役立ち施工の向上の一端にも資するところがあればという願いからである。(バッジ図案はカット参照)さらに終りにはアンケートを配布して、本講座について、とくにこれらの新しい企画に対して聴講者の批判をもとめたことも新しい試みの一といえようか。アンケートの回答は63通得られたがその大多数はその企画を肯定し支持したものであつた。本講座の今後の発展のためには教育委員会は努力をおしまないことはいふまでもないが、会員諸賢の理解と支持なくしては所期の目的は達成することはできないことは明らかである。ここに報告かたがた諸賢の後援を遠くからお願ひする次第である。

(文責教育委員会コンクリート技能講座小委主査横尾義貴)

1. 経過 受講申込 135名 常時受講者 131名
 受講申込者内訳 1級建築士 9名 2級建築士 15名 其他 111名

8月20日	セメント、骨材	益尾講師	131名出席
8月21日	試験法	奥島講師	122名出席
8月23日	水、混和剤、調合	谷口講師	121名出席
8月24日	工法	菅田講師	117名出席
8月26日	工法	金子講師	115名出席
8月27日	工法	日野講師	115名出席
8月29日	実習、見学	大阪生コンクリート卸工場、	



大阪生コンクリート卸工場、工場視察の後実験室で、調合、コンクリート練、スランプ、テストピースの作製等数班に別れ実習、午後梅田ビル、埼玉銀行、アシベ劇場の現場見学
 8月30日 試験 於今橋クラブ 106名受験、(1級、2級建築士合格者は無試験とした、尙当日欠席者には9月8日追試験を行つた)

9月6日 修講式 於今橋クラブ 135名出席 横尾主査の司会、鷺尾委員長の経過報告、尾崎理事(会長代理)の挨拶、坂博士より修了証書の授与並挨拶、後援者の挨拶(藤原地建営繕部長、竹内日本セメント技術課長)を以つて式を終り、建設技術映画(阪部興業提供)を観賞、会を閉じた。

2. コンクリート技能講座についてのアンケート結果報告(63名解答)

- ・学歴・旧大4名、新大9名、旧工専9名、新工高34名、其他7名、
- ・職種・現場係員52名、工長1名、其他10名
- ・実務経歴・(10年以上)2名、(5年以上)14名、(4年)3名、(3年)5名、(2年)10名、(1年)10名、(1年未満)19名
- ・講座内容・この位でよい 46名、やさしい 9名、其他 8名
- ・日数・丁度よい 35名、短い 19名、長い 6名、其他 3名
- ・実習・この程度でよい 28名、実習をもつと 26名、講義を少く実習多く 5名、其他 4名、
- ・見学・ためになつた 49名、つまらない 3名、其他 11名
- ・試験内容・丁度よい 23名、やさしいすぎた 16名、むずかしい 5名
- ・試験の可否・よいと思う 43名、いらない 7名、どちらでも可 9名、其の他 4名

追記 各支部で講座開催の動き・10月下旬—11月中旬 京都、神戸、和歌山、九州(小倉、福岡)で実施するよう地元で準備を進めている。支部会員にはそれぞれ、連絡の予定であり、参加を熱望する。

創立35年記念事業決算報告—昭和27年4月～昭和29年8月

創立35年記念事業は27年1月より3月迄を準備期間として企画を定め、4月より実行に移り爾来物故会員慰霊祭、名古屋以西11個所講演会開催、東海、岐阜、白川、寒簗溪、京都方面見学会、南海線羽衣に於ける住宅建設博覧会、高島屋に於ける住宅展覧会等に引続き表彰会、視察会等主たる事業を28年4月迄に遂行した事は既に其都度会誌に掲載した通りであります、継続事業として残された35年記念史、地質調査図表、建設資料便覧の発行も本年1月迄に逐次刊行し、8月末漸く其結末を見る運びとなりましたので、今後の売上未収等は雑収入に組入れる事とし清算した結果、

¥ 762,415.00 円也の収支差引残金を生じたので之は記念事業基金として将来会館建設資金其他有意義な事業に充当する予定です。

以上の如き成果を挙げ本会所期の目的を達し得た事は偏に会員各位の協力に依るものでありますが、特に絶大な御後援を頂いた寄附者各位の御厚意の賜であります。茲に決算御報告と共に深甚なる感謝の意を表する次第であります。

昭和29年9月1日

社団法人日本建築協会々長 竹 腰 健 造
35年記念事業委員長 東 畑 謙 三

創立35年記念事業精算書—昭和27年4月～29年8月末日

収 入 之 部

単位円

項 目	金 額	内 訳
後 援 会 費	3,405,450	総合関係 45件 1,047,000 管工関係 17件 465,000 電気関係 11件 460,000 事務所関係 11件 213,300 建材関係 117件 1,003,800 個人並地方関係 189件 216,350
地質調査図表取	241,382	広 告 料 60,000 売 上 181,382
建設便覧取入	2,576,149	広 告 料 2,044,538 売 上 531,611
雑 収 入	65,868	預金利子
収 入 計	6,288,849	

支 出 之 部

単位円

項 目	金 額	内 訳
慰 霊 祭 費	133,740	会 場 46,700 供 物 52,150 遺族接待 14,850 印 刷 5,965 通 信 8,990 雑 費 5,085
資 金 部 費	60,892	通 信 35,708 印 刷 14,650 集金文通費 3,034
表 彰 部 費	109,365	記 念 品 10,230 表 彰 費 70,000 印 刷 18,635 通 信 5,100 委 員 会 5,400
講 演 講 習 会 費	282,250	名古屋以西十一個所開講に要せしテキスト外諸経費会費並テキスト売上等 332,540 収入差引支出額

見 学 部 費	119,235	東海、岐阜白川村、四国、京都方面、見学に要せし調査出張其他諸経費、但会費取入並寄附等収入174,510円差引支出額
住 宅 部 費	281,450	羽衣地区に実物住宅28戸建設博覧会開催、これからの住宅図集発行等を行う。 委 員 会 25,700 交 通 18,410 印 刷 7,600 通 信 5,200 宣 伝 43,220 会 場 75,070 開 場 式 42,560 図 集 発 行 36,060 売渡並諸雑費 27,630 ○図集発行費は費上広告収入194,460差引支出額
祝 賀 会 費	79,840	印刷通信 3,650 雑 費 3,420 此外会費収入 52,500を差引支出 晩餐会費 72,770
総 務 部 費	366,863	印 刷 50,600 委 員 会 10,577 人 件 131,062 慰 賞 金 75,000 出品者並委員報告会 23,980 雑 費 48,424 文 通 9,470 通 信 17,750
予 備 費	661,072	建材陳列基金 400,000 住宅展覧会開催 45,040 工高優秀卒業表彰 38,082 日米学生作品交換企画 21,000 文房、雑費、通信、協会諸費 150,000
支 出 計	5,526,434.00	
以上収支差引残	762,415.00	

正 会 員



石原政三君 逝く

正会員石原政三君、病を得て昭和29年8月25日大阪大学病院にて急に逝く。享年55才。

君は、明治32年12月22日神戸市灘の産、佐野家より入りて石原氏を襲ぐ。大正9年3月当時的大阪市立工業学校（現都島工高）建築科を卒業して、直に筆者等の合名会社大阪鉄筋混凝土工務所に入社。後、大正13年東京にて創設した藪中建築事務所に転じ、修養団会館、日本大学等の設計監理に従事したが、都合で帰阪して、松浦組、勝呂組等に腕を振った。藪中建築事務所が大阪に移転するに及び、再び事務所に帰来して筆者を助けたのであつた。戦争末期は尼崎船渠株式会社に建築課長として出向したのである。終戦後は自営を志し拮据経営、業漸くその緒につくに及んで急逝した。真に残念といわねばならぬ。跡に一子を残す、政寛君という。

君は本会としては古い会員の一人である。筆者と

は、35年の苦楽をともにしたものである。その上に年齒未だ壮、愛惜の情、今更に深いものがある。茲に謹んで哀別の辞を捧げる。

君の身上は、至孝至悌、業務には熱心と頑張りとなつた。至孝な君は、今春91才の老母を送り、今又、頑張りもその病には及ばなかつた。真に残念であつた。

君の熱心と頑張りには、いろいろの思い出もあるが身辺のものは省いて、次の昔話を述べる。

大正12年、関東大震災の年である。君は和歌山市の某病院の新築工事に従事した時であつた。鉄筋コンクリート造2階建（現存）であるが、お定まりの工事用のミキサー、タワー等を設置したものである。ところが、動力を使うということは、「これは工場である」よつて、この施設を容れる適法な工場々屋を先づ新築（仮建築ではない）しなければ、取締上使用させる訳にはいかぬという当局の厳命なのである。これには、若い石原君も参つた。お百度を踏み、百方陳弁しても頑として応じない。幸い、当時和歌山工業に在職していた中島智喜君等が応援して、遂に知事、部長まで陳情する結末。ところが、「東京や大阪では通例の事だよ」で、アツサリとケリ。拍子の抜けたことになつてメデタシ、メデタシということである。

当時の地方の鉄筋コンクリート工事の状況は、この一昔話でも判るので一つの草分時代の思い出を述べてみたのである。尤も和歌山としては最初の鉄筋コンクリート建築でもあつたが。（藪中一良記）

— 事 務 局 日 誌 8 月 分 —

- 3日 建材会陳列場出品者会 2～4時陳列場にて開催
- 4日 工学院校友会近畿支部役員会 2～5時朝日ビル事務所
- 5日 天神橋分室にて事務局職員会名簿発行進捗打合せ
- 12日 新任常務理事手島政男本日より出務大和前理事同伴会長副会長理事市市其他関係方面挨拶
- 13日 午後大和、手島新旧理事打連れ各方面挨拶廻りした
- 14日 午後1時～7時手島、大和新旧理事於朝日事務所事務引継ぎ
- 16日 午後1時～7時半於朝日事務所新旧理事事務引継ぎ
- 17日 2時～5時朝日事務所建材会清掃部会開催大和囑託列席

- 19日 正午於新道共同ビル建材会幹事会手島大和新旧理事列席挨拶
- 〃 2時より於朝日事務所大和理事退職慰労金募集実行委員会開催
- 〃 午前10時～3時於第一生命ビル講習会場準備整備事務局一同従事
- 25日 午前大阪商工会議所議員選挙につき打合せ手島理事出席
- 26日 午後伴博士、日野竹中本店技師長来室、大和囑託とブロック建築講習会テキスト作成打合せ
- 〃 建材会清掃部会 2～4時於朝日大和囑託出席
- 〃 4～5時於朝日工学院校友会役員会大和囑託出席
- 28日 午後竹口市消防局建築係長、京都小谷氏来室京都古社寺建築見学につき打合せた
- 31日 桐本市建築局次長来室、渡英挨拶

本会活動報告(会報)——8月分——

若人座談会 1日2時～6時 於朝日

教育委員会事業の一として此日開催(記録は来春「建築と社会」に掲載)

主 記 会 6日4～5時 於朝日ビル

中野、青木、佐村木各主記理事並小泉編集理事出席、昭和30年版会員名簿について種々協議打合せをなす。

コンクリート講習小委員会 6日2～6時

講習会使用映画試写2～4時御堂筋富士フィルム試写室にて。4時～6時於朝日事務室開講につき諸般協議。

災害委員会 7日3～5時 於朝日ビル

本年度事業企画協議。1.都市防災からみた老朽建物の対策 2.労務者の災害防止についての講演会、を目的として推進することになった。尙老朽建物対策は緊急を要するので、府、市、消防局より資料をもちより検討を加えることに決定した。

理 事 会 10日1時～2時 於第一生命ビル倉敷レイ

オン集会室 竹腰会長外13名出席、先に報告事項より始め続いて議事審議をなす。1.建築士中央審議会委員に東畑謙三氏を再推薦をなす。2.法規委員会より機関誌に法令便り掲載を承認。3.手島常務理事任命の件及大和常務理事解任の件を協議それぞれ承認した。以上定刻となり散会する。

評議員会 10日3～4時 於第一生命ビル小野田セメント

社会会議室、鈴木議長・駒副議長外38名出席 昭和28年度収支決算報告承認。常務理事大和榮衛退任並に手島政男新任の件決議。大和榮衛会務囑託の件承認後、大和常務理事退任挨拶。鈴木議長評議員会を代表して感謝の辞あり閉会。

大和常務理事退職慰労金募集実行委員会 10日4～5時

於同所 竹腰会長外、会長より趣旨説明協力を需め一同承認直ちに実行に移る事を申合せた。

有志納涼懇親会 10日6時 於市内天王寺茶臼山

阪口楼、竹腰会長外35名出席有志懇親会開催9時散会。

事務局職員会 13日11時～12時 於朝日

竹腰会長出席事務関係全職員集合、退任理事並新任理事に關し夫々挨拶及紹介後退任者の待遇や新任者に対する希望意見並に全事務局員の将来の心構等につき注意があり大和理事退任手島理事就任挨拶後懇談した。

コンクリート技能講座 20日6時～8時半 於第一生命

四階倉敷レイオンKK会議室開講、聴講者131名。横尾主査司会、伊東副会長開講挨拶、驚尾教育委員長挨拶後、益尾講師により講習開催30日迄6日間。

京都支部役員会 21日午後4時～8時 於京都対飯房

大倉支部長外17名出、本部大和、手島理事列席、講習会開催の件。名簿、広告募集の件、会員増加の件、支部

事業見学会協議後大和理事退任、手島理事就任挨拶後大和理事退職慰労金募集方につき協議後晚餐会開催。

建材審査分科会 23日4時～於朝日

スチールタイル並ビフロ分科委員会開催二件につき審議証明文案作成。

法規委員会 24日3～5時 於朝日

驚尾委員長外10名出席、委員会として検討する問題を出席委員より求め法規に関する苦情を取り上げたものが次の通りである。

1.アーケード設置の問題 2.建築規模に応ずる Parking Area の問題。3.大規模建築物の広告の問題 4.関係規則・条令の統一の問題。5.溝形便所と商業地域の汲取便所禁止の問題。6.手続一本化と促進の問題 7.建築士の権限・その専門化等の問題。8.違反建築処分の問題。

キリンビール見学会 25日2～4時 於尼崎工場

矢野委員長外80名 同工場接待所集合、矢野氏挨拶大阪建築事務所小西技師より新築倉庫等設計説明、芳野工場副長より工場並ビールに関する説明後工場内見学接待所前にて記念撮影後ビール試飲、大和、手島新旧理事の挨拶後解散。

編集委員会 8月28日 午後2時～4時 於朝日

出席者＝浦辺委員長外5名、事務局より2名。

議事として 1)9月号経過報告 2)10月号経過報告 3)手持原稿の件 4)11月号の件 5)その他、を協議した。

コンクリート講座実習会 29日9時～5時

コンクリート講習願講者120名9時半大阪西口集合借切バス三台にて大阪生コンクリート工場に至り実習後午後梅田ビル、埼玉銀行、アシベ劇場等工事現場視察、講師全員並大和、大藤、黒田事務局出。

和歌山支部役員会 30日6～9時 於支部事務所

栗林支部長外14名本部大和手島新旧理事列席 講習会の件、名簿発行協力の件、見学の件等協議後新旧理事退任並就任挨拶、栗林支部長両者に対する感謝と今後の希望等述べた、後大和理事慰労金募集協力方協議した後別席にて懇親会開催9時散会。

コンクリート講習会試験 30日6～8時 於今橋クラブ

第1回聴講者120名に対し試験を行った。

老朽住宅視察 31日1～6時

災害委員会にて予而研究中の老朽住宅対策問題資料の一として市内朝日橋消防署管内に於ける最近倒壊せる家屋並老朽住宅を視察後朝日橋消防署階上で対策に関する座談会開催した。出席府、市、消防署関係者並横尾災害委員長外委員等14名。

編集後記

☆どの新聞だったか忘れたが、中華人民共和国を中共と略すのはいけない、中国でいいというようなことがかかれていたが、その中国は目下国内建設に努め、その地位も向上してきているのは誰もが認めるところである。ジュネーブ会議以来、世界の平和のためには、中国を除外しては考えられない。とくに日本はそうである。今回、日本から2つの「外遊」があつた。一つは、アメリカ方面行きであり、一つは中国行きである。一方は「おツリがこわい」と国民があげて反対したものであり、一方は国民外交としてその期待をよせているものである。日本ほど中国と仲よく結んでいかななくてはならない国はないはずである。「領土主権の相互尊重、不可侵、内政不干涉、平等互惠、平和共存」という原則にもとづいて、お互に友好を高めるときである。

☆29年度の日本の土木建築工事量の推定は約6,100億円で28年度より約1割の減となつている。そのうち請負工事は約4,400億円と推定され、これも28年度の4,900億円の約1割減である。一方、業者の数は、登録業者数は56,000であるが、未登録の小業者もいれると全業者数は約20万ぐらいと考えられる。こうなると、全従業者の1業者当り平均年間工事量はわずか1,000万円以下であり、全業者の1業者当り年内工事量となるとその1/4にもならないだろう。これは1業者当りであつて実際は4,400億円の大半は数社の大手筋建設会社で占められており、大部分の業者はその下積となつてかろうじて仕事をしているありさまである。

デフレ政策がこうしたなかで建設面にもあらわれている。しかも金融の引しめが、とくに中小企業に苦しいしわ寄せを与えている。一方、再軍備政策による基地建設などは引続き大量におこなわれている。

これでは、とうてい国内の平和建設は確保されないどころか、きわめて憂慮すべき日本経済の破たんがあらわれそうである。

中国との友好貿易をのぞむ声が一段と切実となつたのは、この故である。もちろんアメリカも吉田政府も真剣に日中貿易を考えているのではない。それはせまりきている不況の一時的な引のばしとして日中貿易のことを考慮にいれざるをえなくなつてきているだけであつて、そ

の基本的態度は日本軍国主義の復活である。したがつて、国民としては、軍国主義復活をおさえ、平和経済を達成する動きと結びついて、日中貿易を考えなければ成功しない。これは建設界においても同様である。今回の中国を訪問した議員団ならびに文化人が中国の建設状況をしっかりとみてきてもらい、日本の建設界にも活力を与えてほしいと願うのは、あながちせんえつではあるまい。

☆本号は、はじめ「国際号」として企画していたが「グロビウス」が中心となつてしまった。今回来日したグロビウスについては、盛に報道されたので今更いうことは時機はずれだが、本号はグロビウス全体でなく「日本でのグロビウス」の姿を紹介しようとしたものである。13号、12号、15号台風が去つてやつと人は台風に対して判断を下すことができるように、「グロビウス台風」去つて、やつと本当に摂収批判の動きが起つてきているようだが、本号はその材料の一つともなろう。

なお、本号より、作品作風のページを設けて、とくに名古屋以西の優秀な新建築の紹介を試みたいと思つている。老大家はもとより、若い作家の健斗によつて、日本の「デザイナーここにあり」を示すすぐれた作品をうみだしていただきたい。さいごに本号に執筆いただいた野生司、川上、白石、佐藤、蔵田各氏にあつてお礼を申し上げます。その他企画に御協力下さつた多くの人々に感謝します。(9.25.M)

新刊「建物及び設備の保全」パンフレット

清掃器材・室内仕上材の手入、屋根・外装・木造建物・衛生施設・電気器具・給水設備等の保全、消火装置・冷暖房・エレベーター等の管理などを分りやすく解説したもの。1部 100円、会員 80円。
希望の方は、本会までお申込み下さい。

建築と社会 第35輯 第10号

売価 1部100円(送料共)

昭和29年9月25日印刷・昭和29年10月1日発行

編集発行人 沖 田 誠 一

発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜 21334~9番
振替口座大阪 39975番

大阪市北区堂山町66

印刷者 網 野 栄

大阪市北区堂山町66

印刷所 株式会社研文社 電話豊崎2056番

強く優雅な

リグノイド床

テックス
フローリング
調光式通風器



責任施工

田辺工業株式会社

大阪市西区江戸堀上通一丁目五 電話土佐堀47437~9

●第三五集 第一〇号 掲載広告一覧(掲載順)

ライト製作所
田中工業
久保商店
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
齊藤省三商店
三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
榮興商会
三晃商会
建材社
高砂熱学工業
浅海電気産業
近畿電気工事
中央電気工業
立花商会
東海電気土木
三幸商会
鈴木シヤタア商会

田村商会
ミツオキ
吉田芳雄商店
東邦商会
谷山鉄工所
明青工業写真
福昌
三舟窯業
汎建製作所
大正鉄筋コンクリート
樫野石灰工業
大阪コンベス建材社
田中風呂製作所
杉田組協栄
福屋工業
内外工業
大仏組
松井商店
大島応用化学工業
日本チエンブロック製作所
ナニワ瓦
川岸窯業

尾北商店
大和商店
室谷商店
奥山化工業
織本建築設計計算事務所
東京鋼板工業
関西機械建材社
三高製作所
井上工材
内外土木建材社
岩元工業
大阪建材工業
玉置産業
藤森工業
大新物産
関西建材会
日本金具製作所
浪速建材工業
油脂化工社
大阪窯業セメント
木下謹三商店
日本セメント防水剤製造所
荏原製作所
田島応用化工